

## 政策研究レポート

## 新型コロナウイルス感染症による高校生・大学生の人口移動への影響に関する調査報告

自治体経営改革室 室長 大塚 敬

研究員 永野 恵

我が国においては、人口の東京一極集中が長期的に続いてきました。この傾向は大学進学及び就職時の地方圏から東京都への若年層の移住が大きな要因となっています。しかし、新型コロナウイルス感染症により、若年層の東京都への転入数が減少するなど、こうした傾向に変化が生じています。

そこで、本調査では、東京圏以外に居住する高校生及び東京圏も含む全国の大学生を対象として、大学進学時の東京圏への転出意向や、大学卒業時の就職先地域に関する意向を調査するとともに、将来の出身地への移住意向などについて把握しました。さらにこうした選択が新型コロナウイルス感染症によりどのような影響を受けたかについても詳細に把握しました。

大きく変動する我が国の人口動向に対し、地域振興の戦略づくりに取り組むさまざまな立場の皆様にとって、本調査が効果的な戦略の構築を検討する際に多少なりともご参考となれば幸いです。

**<要旨>**

■調査対象：インターネット調査会社の登録モニターのうち、以下に該当する対象者

- 1) 東京圏以外に在住する高校生及び高校卒業後大学受験準備中の者 800 サンプル。なお、令和元年度の学校基本調査の高等学校生徒数の地域別比率に近似したサンプル数を確保している。
- 2) 東京圏を含む全国の大学・大学院生、専門学校・各種学校在学中の者 1500 サンプル。なお、令和元年度の学校基本調査の大学生数の地域別比率に近似したサンプル数を確保している。

■調査結果概要

①将来の進路先の地域

～生活環境、働く環境の魅力から地方の高校生等の2割弱、全国の大学生等の5割前後が東京圏を希望～

- ・ 東京圏以外在住の高校在学中の18.3%、大学受験準備中の14.2%、大学生等(東京圏在住を含む全国)の39.5%～54.7%が東京圏の進路先を希望している。
- ・ 東京圏の進路先を希望する理由は進路先に関係なく、「東京圏で生活することに魅力を感じているから」が34.0%、「働く環境として東京圏に魅力を感じているから」が31.4%である。

②新型コロナウイルス感染症の進路選択への影響

～高校生等、大学生等の一部が東京圏から地方圏へ進学・就職先を変更しているが、その逆も見られる～

- ・ 高校在学中及び大学受験準備中(以下、高校生等)の28.1%が感染症リスクや家庭の経済的事情などから進路を変更しており、その24.4%が浪人回避のため大学志望校ランクを落とし、21.3%が東京圏から地方圏へ、5.8%が地方圏から東京圏へ進学・就職先を変更している。
- ・ 大学生等の24.7%が就職先の地域を変更しており、その54.0%が東京圏から地方圏へ、38.1%が地方圏か

ら東京圏へ変更している。

### ③大学、専門学校等での授業の実態

～9割の大学がリモート授業を実施、今後も続けば東京圏以外出身者の2割は出身地から通学の意向～

- ・56.0%が全授業リモート、併用も含め 90.4%がリモート授業を実施しており、全授業リモート実施は東京圏（64.0%）、近畿圏（57.5%）で多くなっている。
- ・東京圏以外の地域出身者の19.5%はリモート授業が継続した場合、出身地から通学するとしている。

### ④東京圏の進路先を希望する者の将来のUターンの可能性

～東京で進学・就職した後に出身地に戻らない意向を有する者は44.2%、戻る意向を有するものは30.8%～

- ・東京圏の進路先を希望する者は、「東京圏ですっと暮らしたい」が最も多く、「将来はさまざまな地域に住んでみたい」がこれに次いでおり、出身地（高校卒業時の居住地）に戻らない意向を有する者が44.2%を占めている一方、東京圏に進学、就職した後にいずれ出身地に戻る意向を有する者は30.8%である。
- ・「長男（姉がいる）」「長男（姉はいない）」で将来出身地に戻りたいとする回答の合計割合がやや高い。
- ・高校生では関東圏、近畿圏、九州圏在住・出身者、大学生では四国圏、近畿圏、関東圏の出身者で出身地に戻る意向を有する者の割合が高い。

新型コロナウイルス感染症による  
若年層の人口移動への影響に関する調査報告

報告書

令和2年11月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング  
自治体経営改革室

## 【目 次】

I. 調査の概要 .....	5
1. 調査内容 .....	5
2. 調査実施時期、実施方法 .....	5
3. 調査対象 .....	5
4. 調査結果をみる上での注意事項 .....	5
II. 調査結果概要 .....	7
III. 調査結果 .....	9
1. 回答者の属性 .....	9
2. 将来の進路 .....	13
3. 新型コロナウイルス感染症の進路選択への影響 .....	26
4. 大学、専門学校等での授業の実態 .....	36
5. 将来の居住地の希望 .....	41

## I. 調査の概要

---

### 1. 調査内容

- ・回答者属性
- ・将来の進路
- ・新型コロナウイルス感染症の進路選択への影響
- ・大学、専門学校での授業の実態
- ・将来の居住地の希望

### 2. 調査実施時期、実施方法

令和2年8月～令和2年9月 WEB モニターアンケート調査により実施

### 3. 調査対象

調査対象：インターネット調査会社の登録モニターのうち、以下に該当する対象者

- ①東京圏以外に在住する高校生及び高校卒業後進学準備中の者 800 サンプル。令和元年度の学校基本調査に基づく高等学校生徒数の地域別比率に可能な限り近い回収数を確保した。
- ②東京圏を含む全国の大学・大学院生、専門学校・各種学校在学中の者 1500 サンプル。令和元年度の学校基本調査に基づく大学生数の地域別比率に可能な限り近い回収数を確保した。

(注) 東京圏及び地方の圏域の分類は以下のとおり（以下同様）。

北海道圏：北海道

東北圏：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

関東圏：茨城県、栃木県、群馬県、山梨県

北陸圏：富山県、石川県、福井県

中部圏：長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿圏：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国圏：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国圏：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州圏：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

### 4. 調査結果をみる上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数を指す。

- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。したがって、回答率の合計が100%にならない場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答団体数が少ない場合は傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

## II. 調査結果概要

---

### (1) 回答者属性

- ・ 性別は男性 56.5%、女性 43.5%で、社会的立場は「大学(学部)在学中」が 53.8%、「高校・高専在学中」が 34.2%、「短期大学、専門学校・各種学校」が 6.8%である。
- ・ 居住地は、東京圏在住者を除く高校在学中では、中部圏、近畿圏の割合が高く計約 4 割を占めており、約 6 割が三大都市圏以外の地方圏となっている。一方、東京圏在住者も含む大学(学部)在学中は東京圏が約 4 割、中部圏、近畿圏が計約 3 割、三大都市圏以外の地方圏が約3割となっている。
- ・ 大学等の通学先所在地は東京圏が 42.7%、近畿圏が 21.0%、中部圏が 13.2%、九州圏が 11.3%である
- ・ 大学生等が高校卒業時に居住していた地域は東京圏が 34.4%、近畿が 18.5%、中部が 12.9%、九州圏が 9.5%である。
- ・ 兄弟の中での立場は「長男(姉はいない)」が 28.5%、「長女(兄はいない)」21.3%である。

### (2) 将来の進路

- ・ 高校在学中の 76.7%、大学受験準備中の 78.5%が大学等の高等教育機関への進学を希望している。
- ・ 短期大学、専門学校・各種学校、大学、大学院の 71.9%～85.8%が就職を希望している。
- ・ 高校在学中の 18.3%、大学受験準備中の 14.2%、大学生等(東京圏在住を含む全国)の 39.5%～54.7%が東京圏の進路先を希望している。
- ・ 東京圏の進路先を希望する理由は「進路先に関係なく、東京圏で生活することに魅力を感じているから」が 34.0%、「進路先に関係なく、働く環境として東京圏に魅力を感じているから」が 31.4%である。
- ・ 地方圏の進路先を希望する理由は「進路先に関係なく、地方圏で生活することに魅力を感じているから」が 25.6%、「進学にあたり親に経済的負担をかけたくないから」が 23.4%である。

### (3) 新型コロナウイルス感染症の進路選択への影響

#### ① 高校生在学中、大学受験準備中(東京圏以外在住)

- ・ 感染症のリスクや家庭の経済的事情などを背景として、28.1%が新型コロナウイルス感染症の影響により進路選択を変更しており、その 24.4%が浪人回避のため大学受験の志望校ランクを落とし、21.3%が東京圏から地方圏へ、5.8%が地方圏から東京圏へ進学・就職先を変更している。

## ② 大学、大学院生、専門学校等(全国)

- ・ 24.7%が就職先の地域を変更しており、その 54.0%が地方圏から東京圏へ、38.1%が地方圏から東京圏へ変更している。

## (4) 大学、専門学校等での授業の実態

- ・ 56.0%が全授業リモート実施であり、併用も含め 90.4%がリモート授業を実施している。また、全授業リモート実施は東京圏(64.0%)、近畿圏(57.5%)で多くなっている。
- ・ リモート授業のメリットは通学時間が掛からないこと(87.6%)、自宅で受講できること(55.2%)、デメリットは友達に会えないこと(53.8%)とされている。
- ・ 東京圏以外の地域出身の大学生等の 19.5%はリモート授業が継続した場合、出身地から通学するとしている。

## (5) 将来の居住地の希望

- ・ 東京圏の進路先を希望する者は、「東京圏ですっと暮らしたい」が最も多く、「将来はさまざまな地域に住んでみたい」がこれに次いでおり、出身地(高校卒業時の居住地)に戻らない意向を有する者が 44.2%を占めている一方、東京圏に進学、就職した後いずれ出身地に戻る意向を有する者は 30.5%である。
- ・ 「長男(姉がいる)」「長男(姉はいない)」で将来出身地に戻りたいとする回答の合計割合がやや高い。
- ・ 高校生では関東圏、近畿圏、九州圏在住・出身者、大学生では四国圏、近畿圏、関東圏の出身者で出身地に戻る意向を有する者の割合が高い。

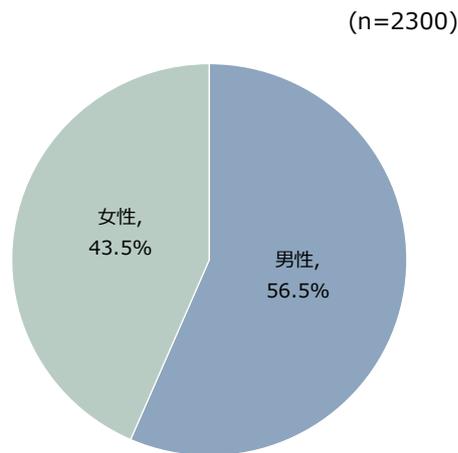
### III. 調査結果

#### 1. 回答者の属性

##### (1) 性別

回答者の性別は、「男性」が 56.5%、「女性」が 43.5%であった。

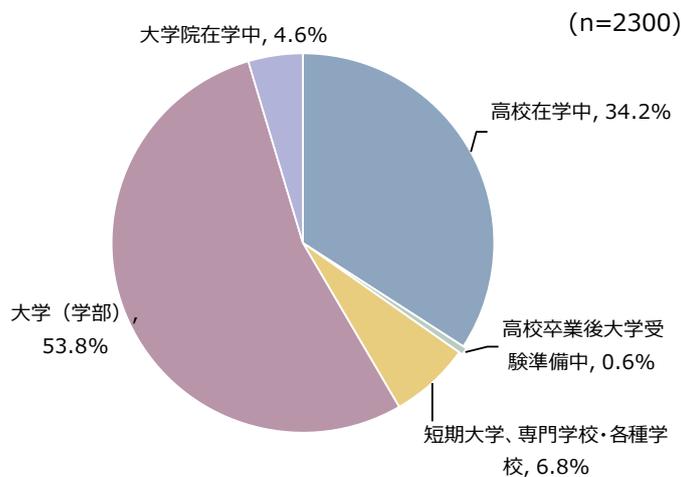
図表 1 性別(単一回答)



##### (2) 現在の社会的な立場

現在の社会的な立場は、「大学(学部) 在学中」が最も高く 53.8%であった。次いで「高校・高専在学中」(34.2%)、「短期大学、専門学校・各種学校」(6.8%)となっている。

図表 2 社会的な立場(単一回答)

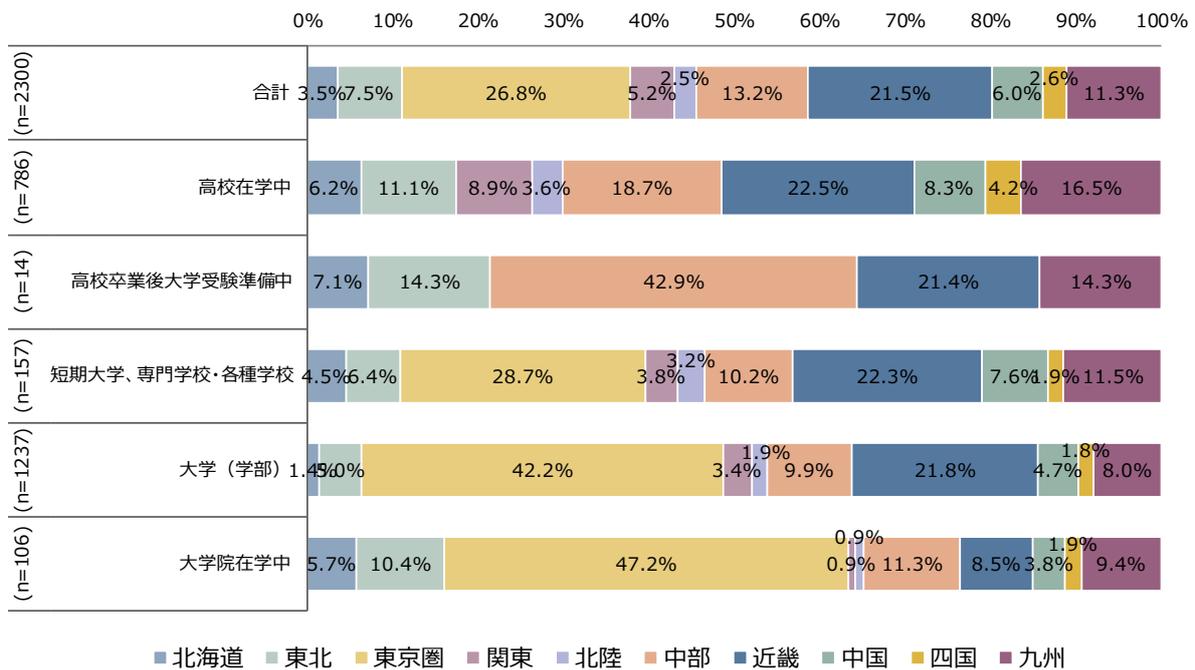


(3) 現在の居住地<sup>1</sup>

本調査では、東京圏以外に在住する高校生及び高校卒業後進学準備中の者、東京圏を含む全国の大学・大学院生、専門学校・各種学校在学中の者を回答者としており、各地域におけるサンプル抽出にあたっては、高校生や大学生の実際の地域分布に限りなく近づけた回収数とした。

サンプル数の多い属性をみると、「高校在学中」では中部圏や近畿圏の割合が高く、「大学(学部)」では東京圏に次いで、近畿圏の割合が高くなっている。

図表3 社会的立場別 現在の居住地(単一回答)

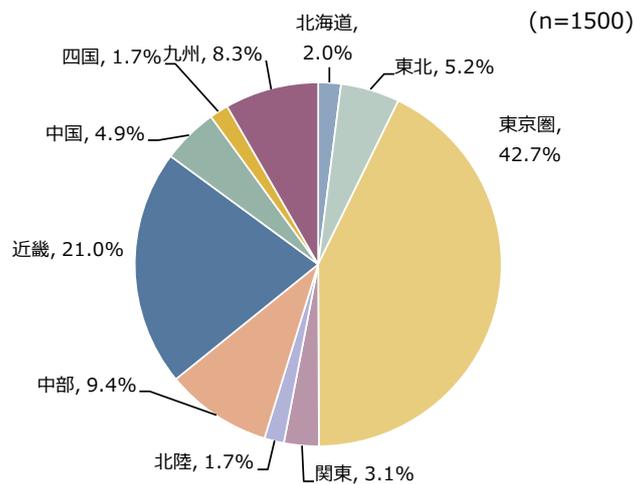


<sup>1</sup> 地域区分は、北海道、東北（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県）、東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）、関東（茨城県、栃木県、群馬県、山梨県）、北陸（富山県、石川県、福井県）、中部（長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）、近畿（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）、中国（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）、四国（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）、九州（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

#### (4) 大学等の通学先所在地

(2) の「現在の社会的な立場」において、「短期大学、専門学校・各種学校」「大学（学部）」「大学院在学中」と回答した人に、現在の通学先の所在地を尋ねたところ、「東京圏」が42.7%で最も多く、次いで「近畿」（21.0%）、「中部」（9.4%）、「九州」（8.3%）「中国」（4.9%）の順となっている。

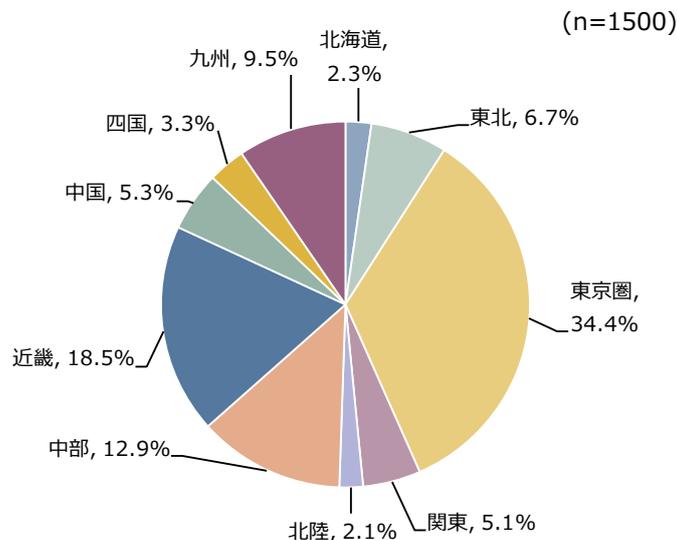
図表 4 現在の居住地(単一回答)



#### (5) 高校卒業時に居住していた地域(出身地)

(2) の「現在の社会的な立場」において、「短期大学、専門学校・各種学校」「大学（学部）」「大学院在学中」と回答した人に、高校在学時に居住していた地域を尋ねたところ、「東京圏」が34.4%で最も多く、次いで「近畿」（18.5%）、「中部」（12.9%）、「九州」（9.5%）「東北」（6.7%）の順となっている。

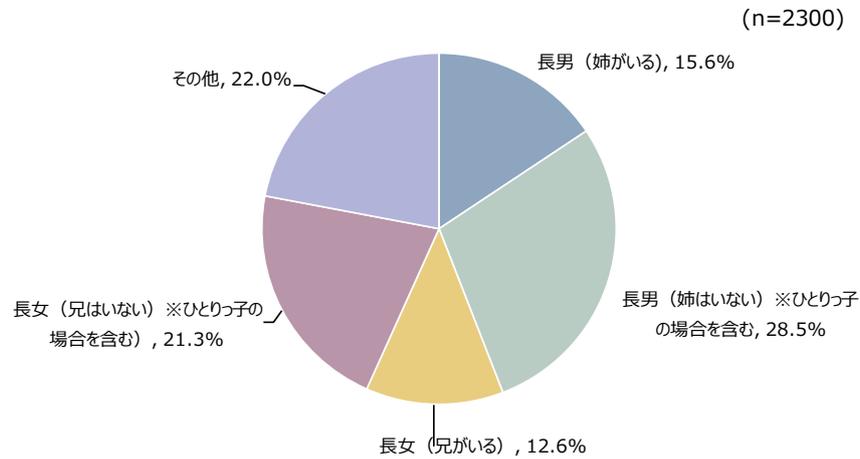
図表 5 高校卒業時に居住していた地域(単一回答)



## (6) 兄弟の中での立場

兄弟の中での立場をみると、ひとりっ子の場合を含む「長男（姉はいない）」が28.5%、「長女（兄はいない）」21.3%となっており、年上の兄弟・姉妹のいない長子の割合が49.8%と全体の約半数を占める。

図表6 兄弟の中での立場



## 2. 将来の進路

### (1) 希望する進路

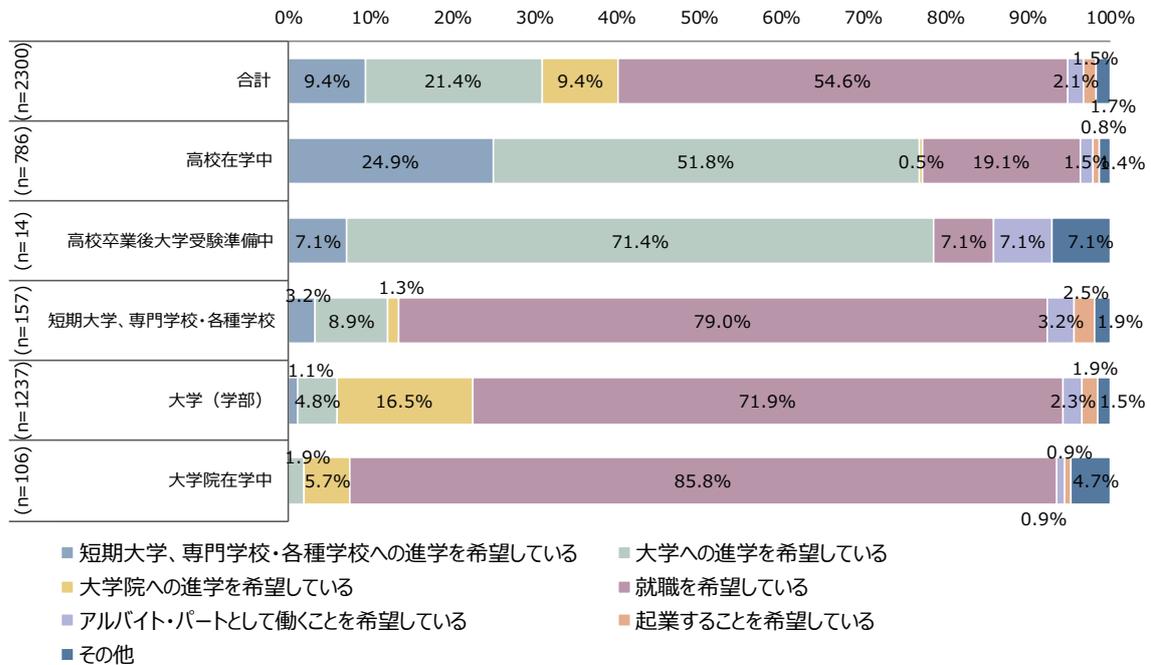
希望する進路について、社会的立場別、性別、兄弟の中の立場別にその傾向を見た。

#### ■社会的立場別

「高校在学中」の76.7%、「高校卒業後大学受験準備中」の78.5%が大学・専門学校等の高等教育機関への進学を希望している。「高校卒業後大学受験準備中」においては、78.5%のうち71.4%が大学への進学を希望している。

「短期大学、専門学校・各種学校」「大学(学部)」「大学院在学中」においては、71.9%～85.8%が就職を希望しているが、「短期大学、専門学校・各種学校」の13.4%、「大学(学部)」の22.4%が進学を希望している。

図表 7 社会的立場別希望する進路(単一回答)

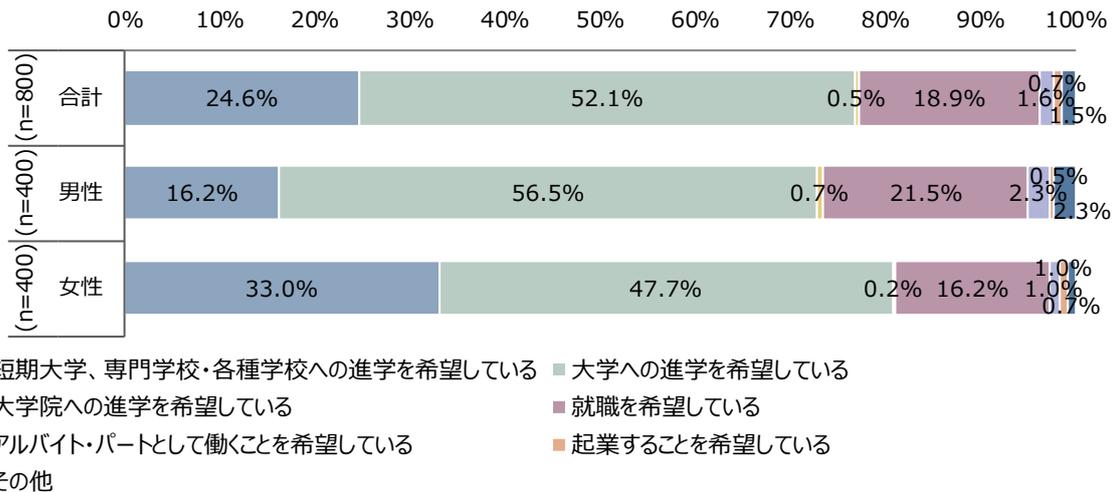


■社会的立場別×性別の傾向

<高校在学中・高校卒業後大学受験準備中>

社会的立場が「高校在学中」「高校卒業後大学受験準備中」の者の、希望する進路を性別にみると、男性において「大学への進学を希望している」「就職を希望している」の割合が相対的に高く、女性において「短期大学、専門学校・各種学校への進学を希望している」の割合が相対的に高いという結果になった。

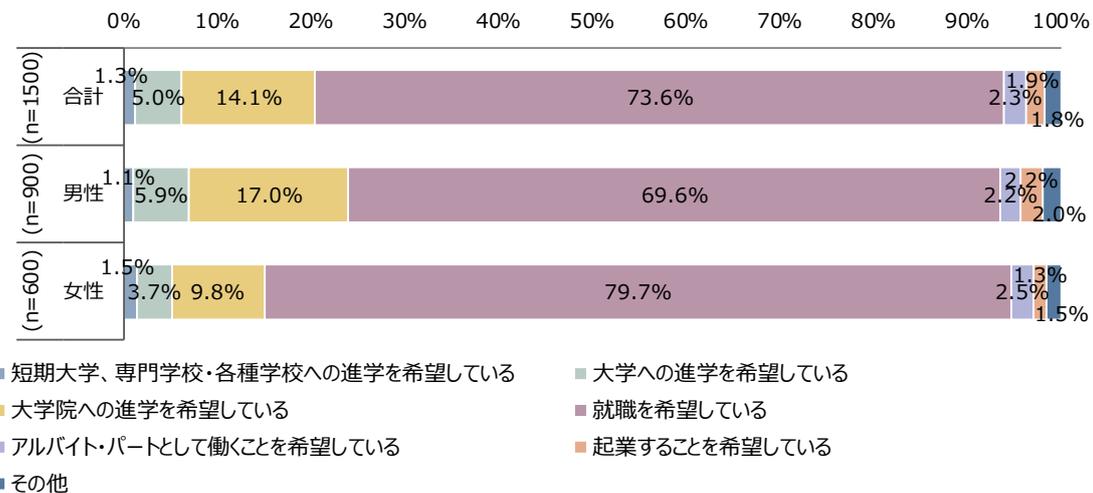
図表 8 高校生等：性別希望する進路(単一回答)



<短期大学、専門学校・各種学校、大学(学部)、大学院在学中>

社会的立場が「短期大学、専門学校・各種学校」「大学(学部)」「大学院在学中」の者の、希望する進路を性別にみると、男性において「大学院への進学を希望している」の割合が相対的に高く、女性において「就職を希望している」の割合が相対的に高いという結果になった。

図表 9 大学生等：性別希望する進路(単一回答)

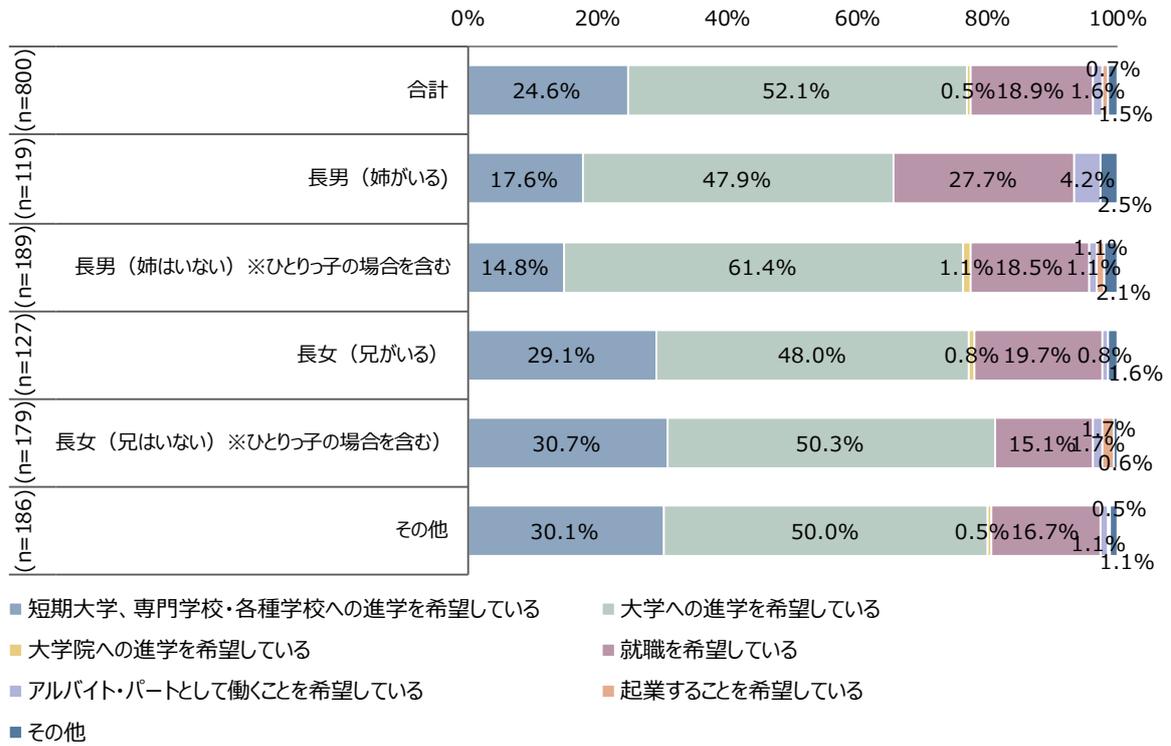


■社会的立場別×兄弟の中の立場別の傾向

<高校在学中・高校卒業後大学受験準備中>

社会的立場が「高校在学中」「高校卒業後大学受験準備中」の者の、希望する進路を兄弟の中の立場別にみると、「長男（姉はいない）」において、相対的に大学進学希望者が多いという結果になった。

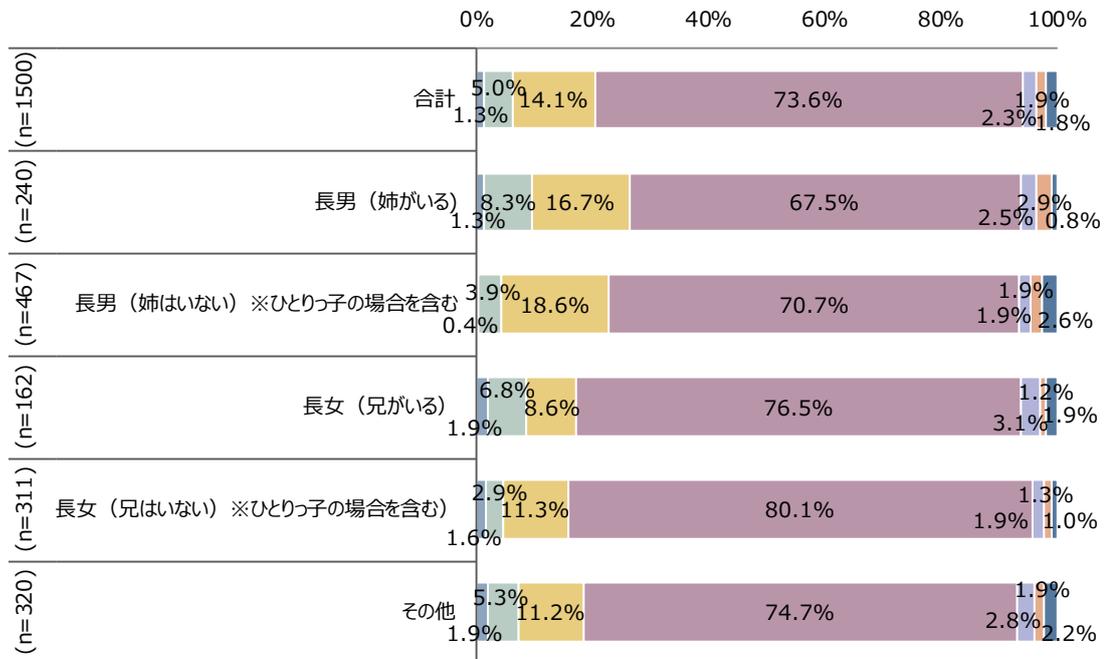
図表 10 高校等：兄弟の中の立場別希望する進路（単一回答）



<短期大学、専門学校・各種学校、大学（学部）、大学院在学中>

社会的立場が「短期大学、専門学校・各種学校」「大学（学部）」「大学院在学中」の者の、希望する進路を兄弟の中の立場別にみると、若干ではあるが「長男（姉はいない）」において、相対的に大学院進学希望者が多いという結果になった。

図表 11 大学等：兄弟の中の立場別希望する進路（単一回答）



- 短期大学、専門学校・各種学校への進学を希望している
- 大学院への進学を希望している
- 大学への進学を希望している
- 就職を希望している
- アルバイト・パートとして働くことを希望している
- 起業することを希望している
- その他

## (2) 進路先の希望所在地

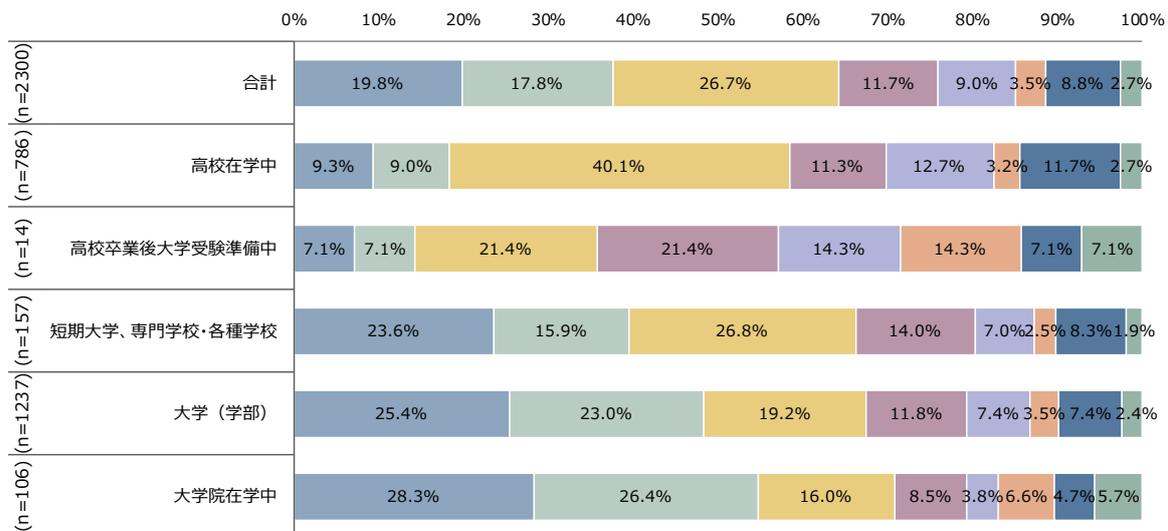
高校生等、大学生等を合わせた回答者全体でみた進路先の希望所在地は、「地方圏（出身地）の進路先が希望であり、それ以外は考えていない」とする人の割合が最も高く 26.7%である。次いで「東京圏の進路先が希望であり、それ以外は考えていない」が 19.8%、「東京圏の進路先が希望だが、希望通りの進路先に行けない場合は地方圏の進路先に進む」とする人の割合が 17.8%となっており、進路先の希望所在地として東京圏を希望する人の割合が 37.6%となっている。

### ■社会的立場別の傾向

「高校在学中」「高校卒業後大学受験準備中」の者<sup>2</sup>について、東京圏以外の進路先を希望する割合が高くなっており、特に「高校在学中」では 51.4%が地方圏（出身地）の進路先を希望している。

「短期大学、専門学校・各種学校」「大学（学部）」「大学院在学中」の者<sup>3</sup>について、39.5%～54.7%が東京圏の進路先を希望しており、短期大学等、大学、大学院の順に東京圏希望比率が高くなっている。

図表 12 社会的立場別希望する進路先の地域(単一回答)



- 東京圏の進路先が希望であり、それ以外は考えていない
- 東京圏の進路先が希望だが、希望通りの進路先に行けない場合は地方圏の進路先に進む
- 地方圏（出身地）の進路先が希望であり、それ以外は考えていない
- 地方圏（出身地）の進路先が希望だが、希望通りの進路先にいけない場合は東京圏の進路先に進む
- 出身地以外の地方圏の地域の進路先が希望であり、それ以外は考えていない
- 出身地以外の地方圏の地域の進路先が希望だが、希望通りの進路先にいけない場合は東京圏の進路先に進む
- 出身地以外の地方圏の地域の進路先が希望だが、希望通りの進路先にいけない場合は東京圏の進路先に進む
- その他

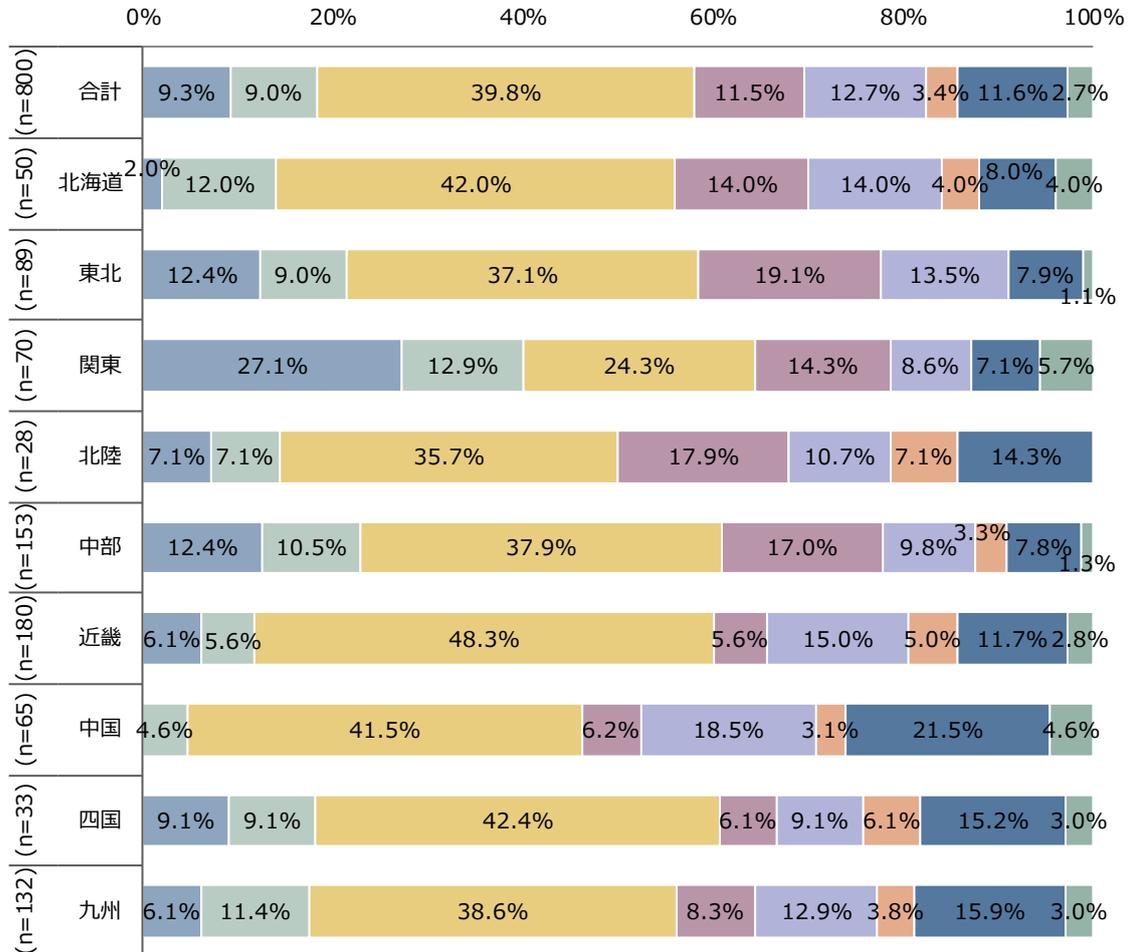
<sup>2</sup> 東京圏を除く全国の高校生

<sup>3</sup> 東京圏出身者を含む全国の大学等の在学学生

### ■居住地別の傾向（高校生等）

社会的立場が「高校在学中」「高校卒業後大学受験準備中」の者の、希望する進路先の地域を現在の居住地別にみると、関東地域では、東京圏の進路先を希望する割合が高く、近畿圏や中国圏では、出身地も含めた地方圏の進路先を希望する割合が相対的に高い。

図表 13 高校生等：居住地別希望する進路先の地域（単一回答）



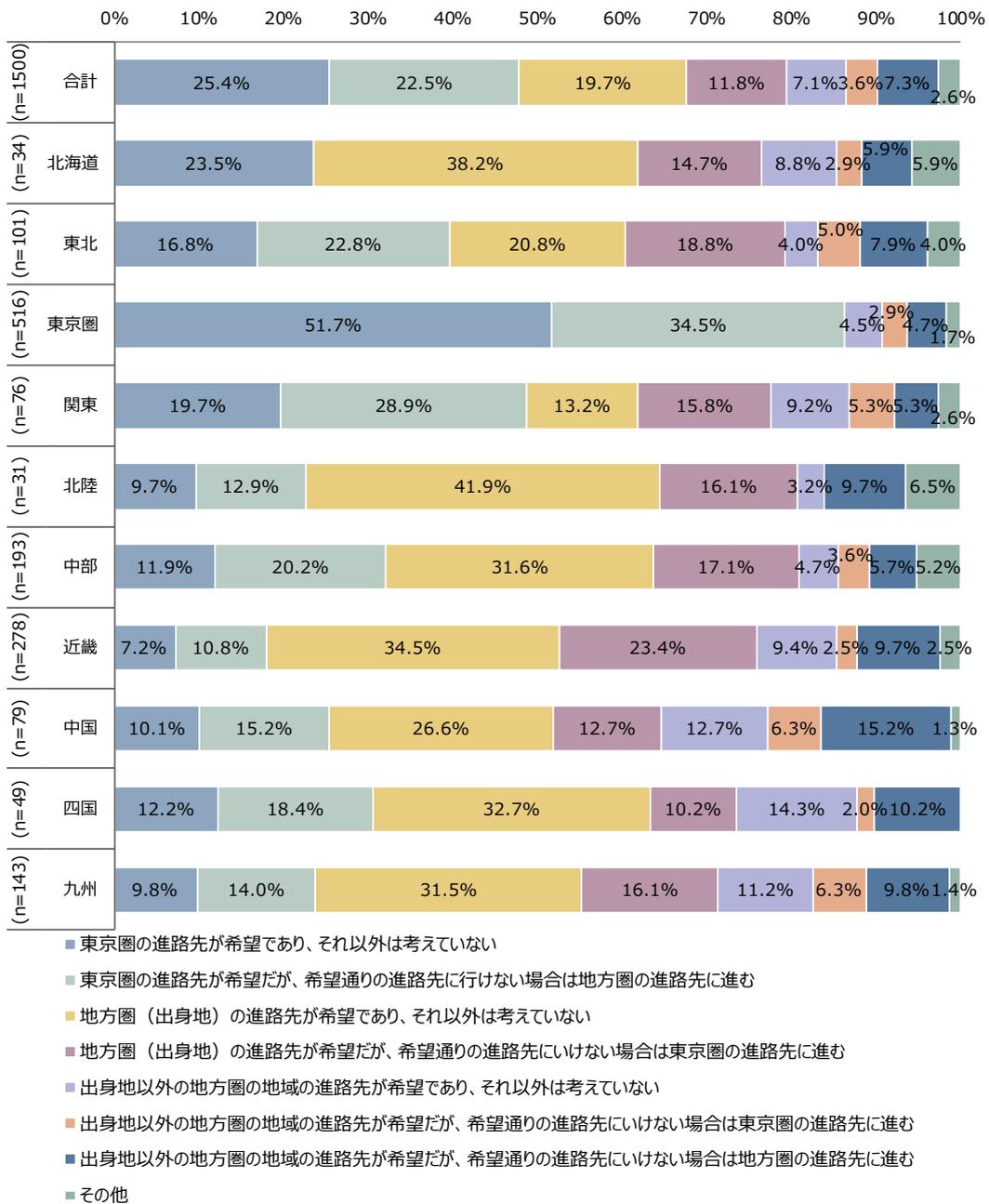
- 東京圏の進路先が希望であり、それ以外は考えていない
- 東京圏の進路先が希望だが、希望通りの進路先に行けない場合は地方圏の進路先に進む
- 地方圏（出身地）の進路先が希望であり、それ以外は考えていない
- 地方圏（出身地）の進路先が希望だが、希望通りの進路先に行けない場合は東京圏の進路先に進む
- 出身地以外の地方圏の地域の進路先が希望であり、それ以外は考えていない
- 出身地以外の地方圏の地域の進路先が希望だが、希望通りの進路先に行けない場合は東京圏の進路先に進む
- 出身地以外の地方圏の地域の進路先が希望だが、希望通りの進路先に行けない場合は地方圏の進路先に進む
- その他

■出身地（高校卒業時の居住地）別の傾向（大学生等）

社会的立場が「短期大学、専門学校・各種学校」「大学（学部）」「大学院在学中」の者の、希望する進路先の地域を出身地（高校卒業時の居住地）別にみた。高校卒業時に東京圏に居住していた者において、東京圏の進路先への希望割合が突出して高くなっており、次いで関東圏や東北圏において、割合が高い。

北海道や北陸圏、近畿圏、九州圏などでは、出身地も含めた地方圏への進学を希望する割合が相対的に高くなっている。

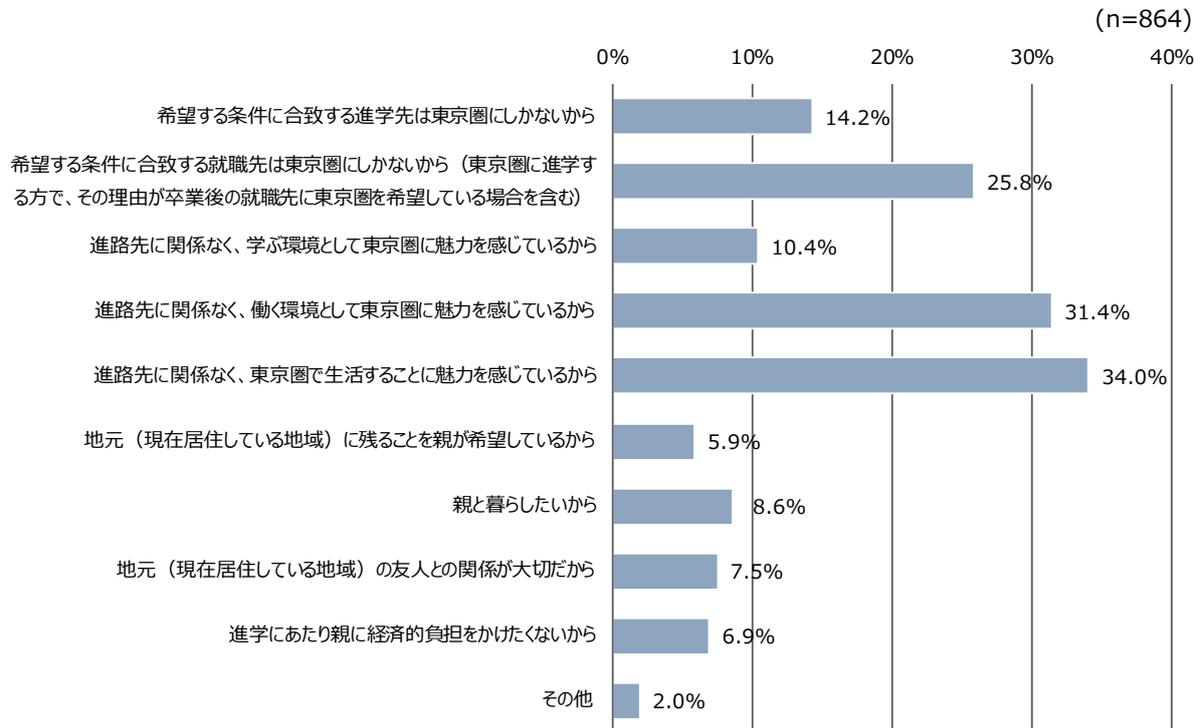
図表 14 大学生等：出身地（高校卒業時の居住地）別希望する進路先の地域（単一回答）



### (3) 東京圏の進路先を希望する理由

高校生等、大学生等を合わせた回答者全体のうち、東京圏の進路先を希望した人（「東京圏の進路先が希望であり、それ以外は考えていない」、「東京圏の進路先が希望だが、希望通りの進路先に行けない場合は地方圏の進路先に進む」と回答した人）の希望理由は「進路先に関係なく、東京圏で生活することに魅力を感じているから」とする人の割合が最も高く 34.0% となっている。次いで、「進路先に関係なく、働く環境として東京圏に魅力を感じているから」が 31.4%、「希望する条件に合致する就職先は東京圏にしかないから（東京圏に進学する方で、その理由が卒業後の就職先に東京圏を希望している場合を含む）」25.8%となっている。

図表 15 東京圏の進路先を希望する理由(複数回答)

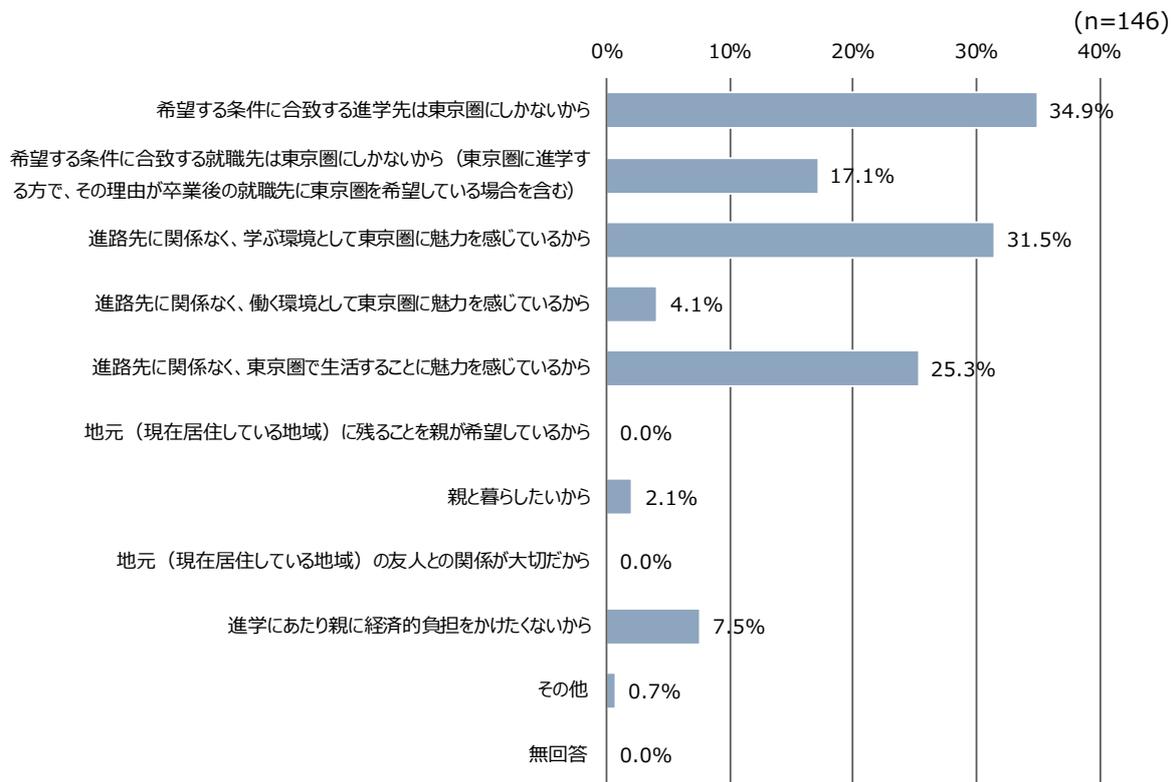


## ■社会的立場別の傾向

### <高校在学中・高校卒業後大学受験準備中>

社会的立場が「高校在学中」「高校卒業後大学受験準備中」の者の、東京圏の進路先を希望する理由をみると、「希望する条件に合致する進学先は東京圏にしかないから」の割合が最も高く 34.9%となっている。次いで、「進路先に関係なく、学ぶ環境として東京圏に魅力を感じているから」が 31.5%、「進路先に関係なく、東京圏で生活することに魅力を感じているから」25.3%となっている。

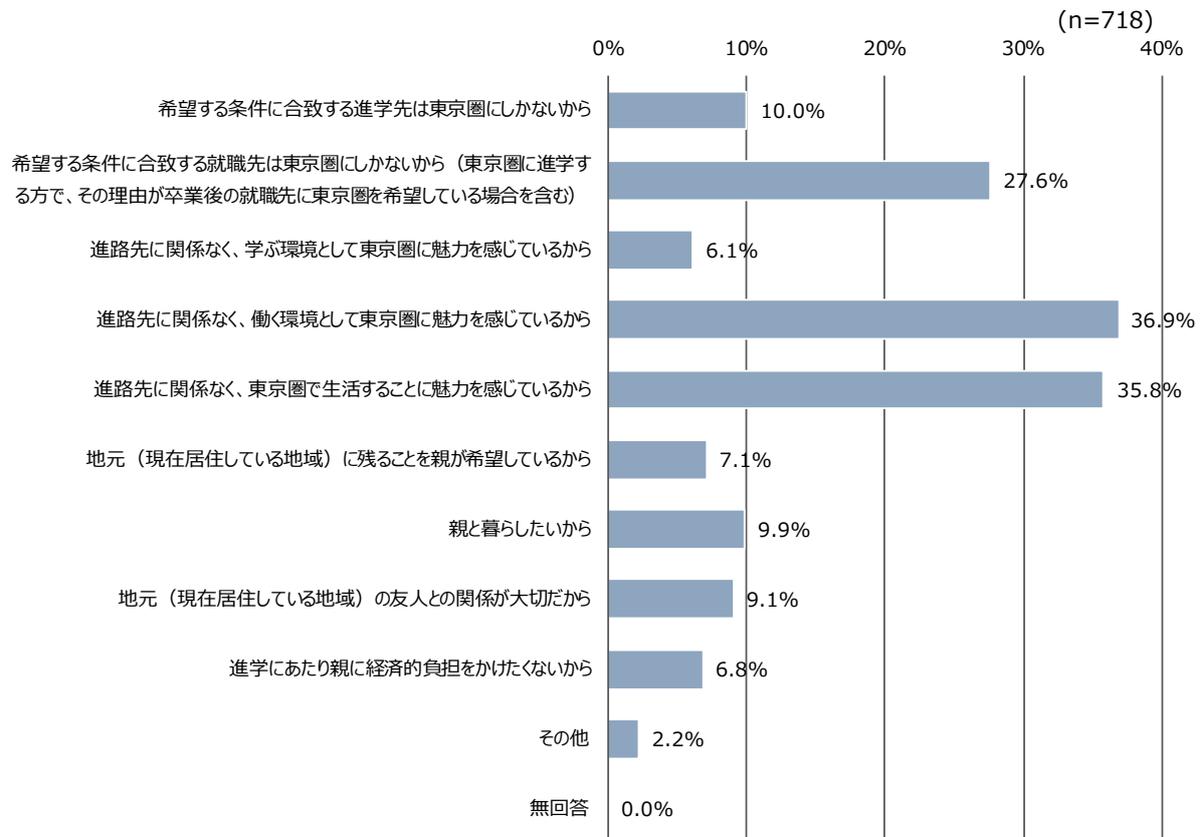
図表 16 高校生等：東京圏の進路先を希望する理由（複数回答）



## &lt;短期大学、専門学校・各種学校、大学（学部）、大学院在学中&gt;

社会的立場が「短期大学、専門学校・各種学校」「大学（学部）」「大学院在学中」の者の、東京圏の進路先を希望する理由をみると、「進路先に関係なく、働く環境として東京圏に魅力を感じているから」の割合が最も高く 36.9%となっている。次いで、「進路先に関係なく、東京圏で生活することに魅力を感じているから」が 35.8%、「希望する条件に合致する就職先は東京圏にしかないから（東京圏に進学する方で、その理由が卒業後の就職先に東京圏を希望している場合を含む）」 27.6%となっている。

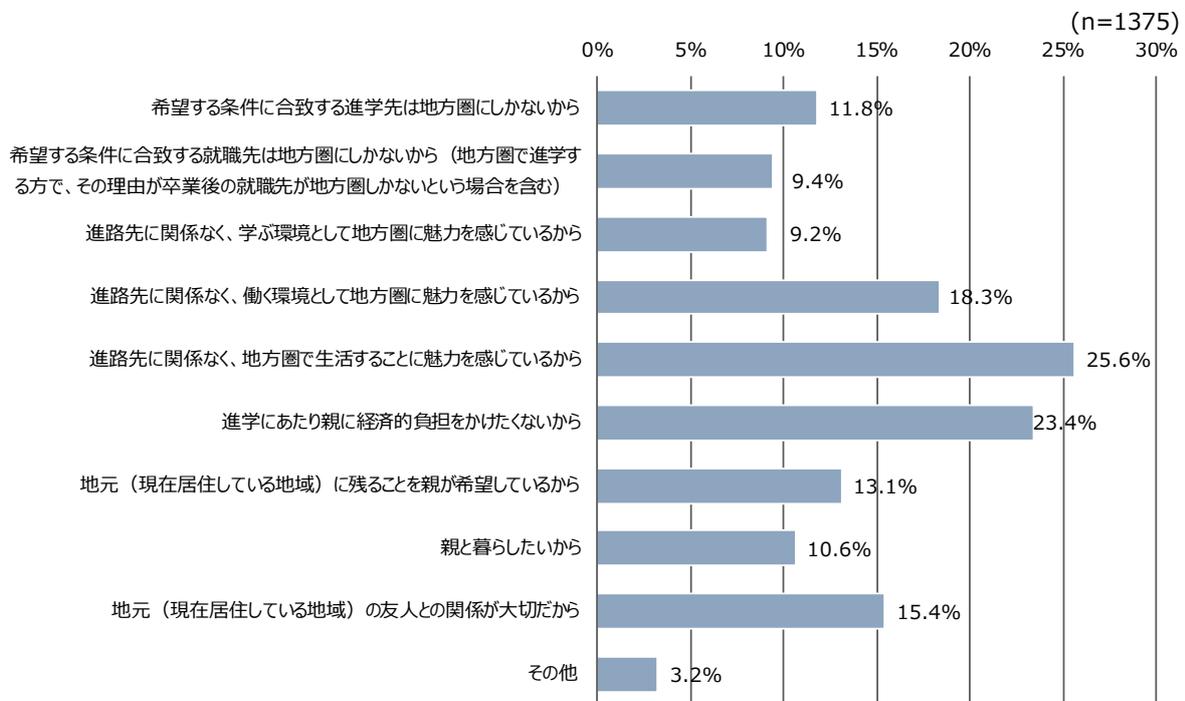
図表 17 大学生等：東京圏の進路先を希望する理由（複数回答）



#### (4) 地方圏の進路先を希望する理由

高校生等、大学生等を合わせた回答者全体のうち、地方圏（出身地）の進路先を希望した人（「地方圏（出身地）の進路先が希望であり、それ以外は考えていない」、「地方圏（出身地）の進路先が希望だが、希望通りの進路先にいけない場合は東京圏の進路先に進む」「出身地以外の地方圏の地域の進路先が希望であり、それ以外は考えていない」「出身地以外の地方圏の地域の進路先が希望だが、希望通りの進路先にいけない場合は東京圏の進路先に進む」「出身地以外の地方圏の地域の進路先が希望だが、希望通りの進路先にいけない場合は地方圏の進路先に進む」と回答した人）の希望理由は「進路先に関係なく、地方圏で生活することに魅力を感じているから」とする人の割合が最も高く 25.6%となっている。次いで、「進学にあたり親に経済的負担をかけたくないから」が 23.4%、「地元（現在居住している地域）の友人との関係が大切だから」 15.4%となっている。

図表 18 地方圏の進路先を希望する理由（複数回答）

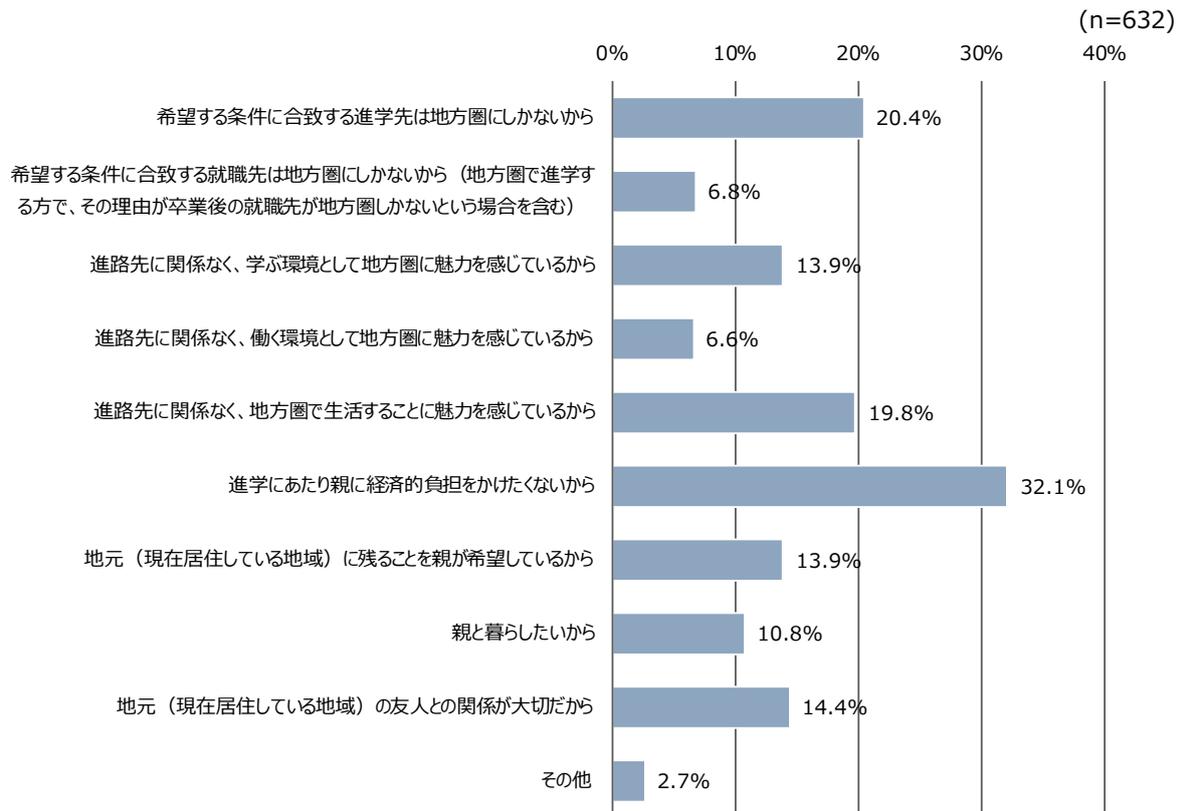


## ■社会的立場別の傾向

### <高校在学中・高校卒業後大学受験準備中>

社会的立場が「高校在学中」「高校卒業後大学受験準備中」の者の、地方圏の進路先を希望する理由をみると、「進学にあたり親に経済的負担をかけたくないから」の割合が最も高く32.1%となっている。次いで、「希望する条件に合致する進学先は地方圏にしかないから」が20.4%、「進路先に関係なく、地方圏で生活することに魅力を感じているから」が19.8%となっている。

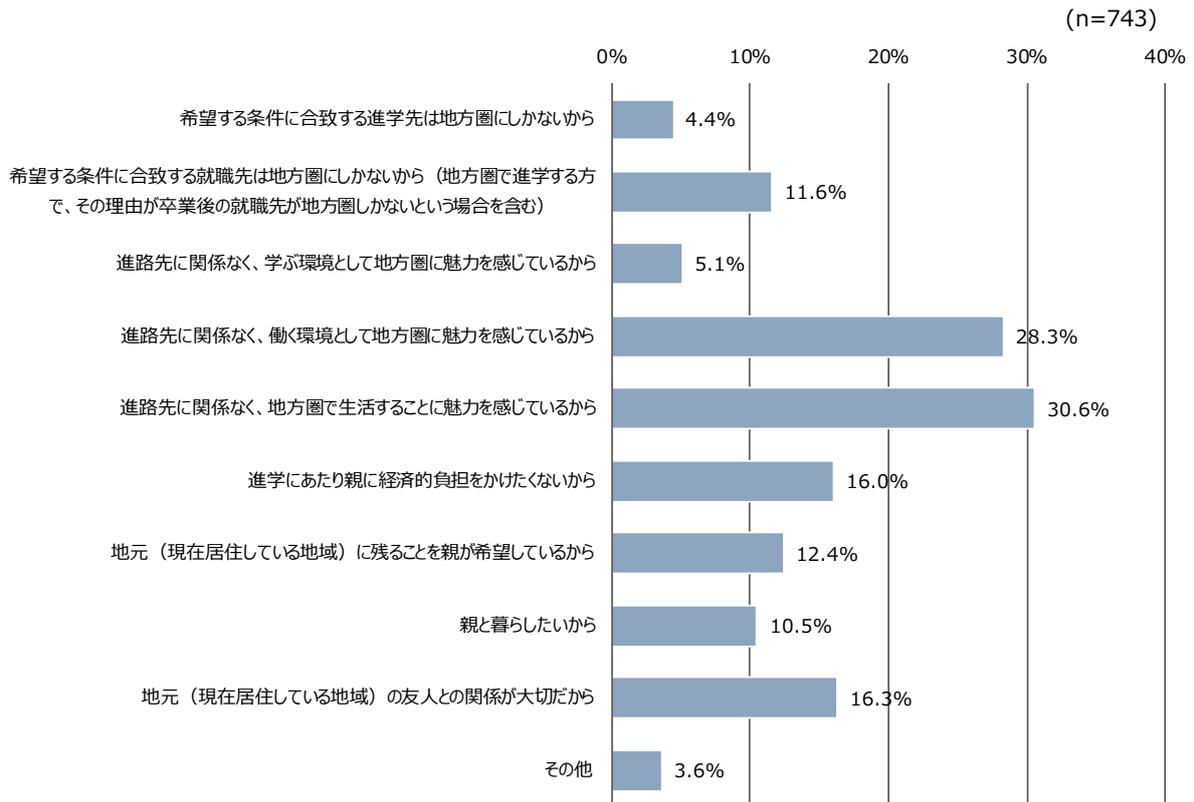
図表 19 高校生等：地方圏の進路先を希望する理由（複数回答）



<短期大学、専門学校・各種学校、大学（学部）、大学院在学中>

社会的立場が「短期大学、専門学校・各種学校」「大学（学部）」「大学院在学中」の者の、地方圏の進路先を希望する理由をみると、「進路先に関係なく、地方圏で生活することに魅力を感じているから」の割合が最も高く 30.6%となっている。次いで、「進路先に関係なく、働く環境として地方圏に魅力を感じているから」が 28.3%、「地元（現在居住している地域）の友人との関係が大切だから」が 16.3%となっている。

図表 20 大学生等：地方圏の進路先を希望する理由（複数回答）



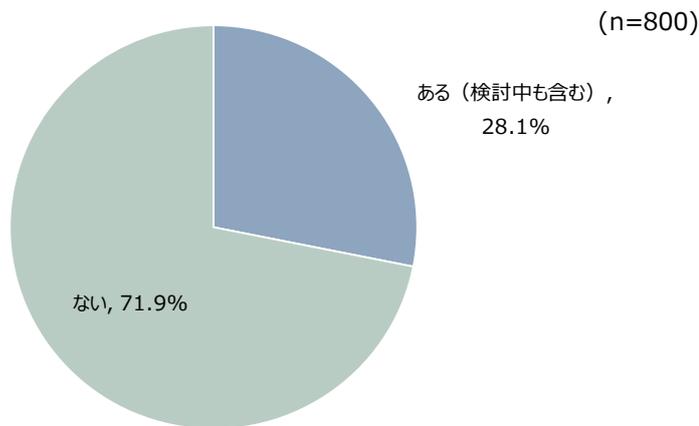
### 3. 新型コロナウイルス感染症の進路選択への影響

#### (1) 高校生在学中、大学受験準備中（東京圏以外在住）

##### ① 新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択の変更

新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択の変更は、「ある」が28.1%、「ない」が71.9%となっている。

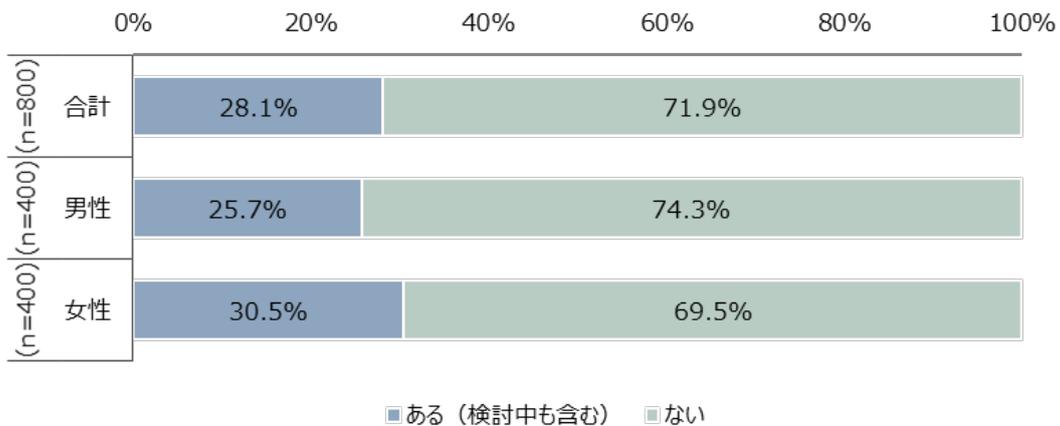
図表 21 新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択の変更の有無(単一回答)



#### ■性別の傾向

性別に見ると、女性の方が進路選択の変更が「ある」の割合が高い。

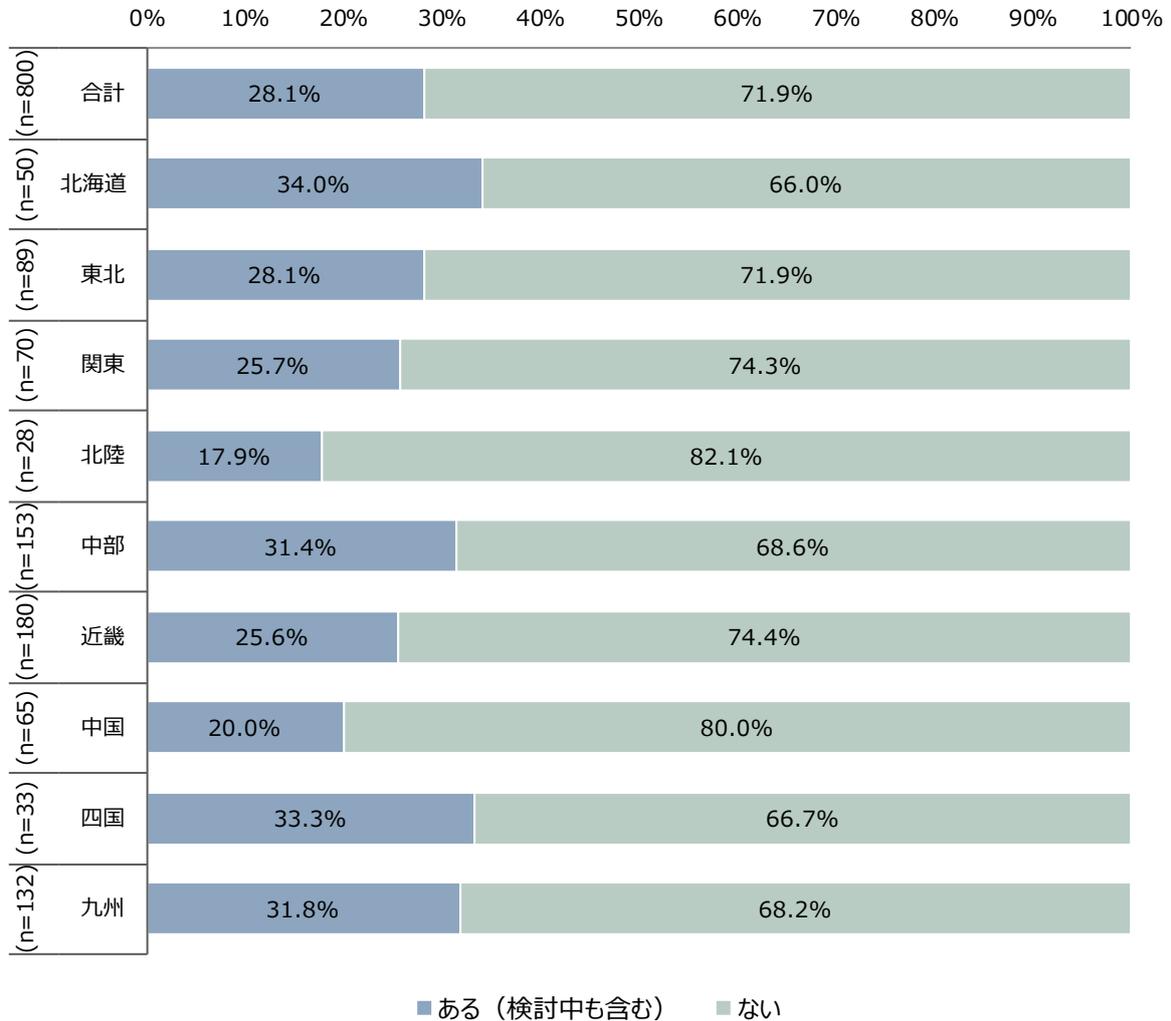
図表 22 性別新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択の変更の有無(単一回答)



### ■居住地別の傾向

居住地別に見ると、北海道圏、四国圏、九州圏、中部圏などで「ある」の割合が高い。

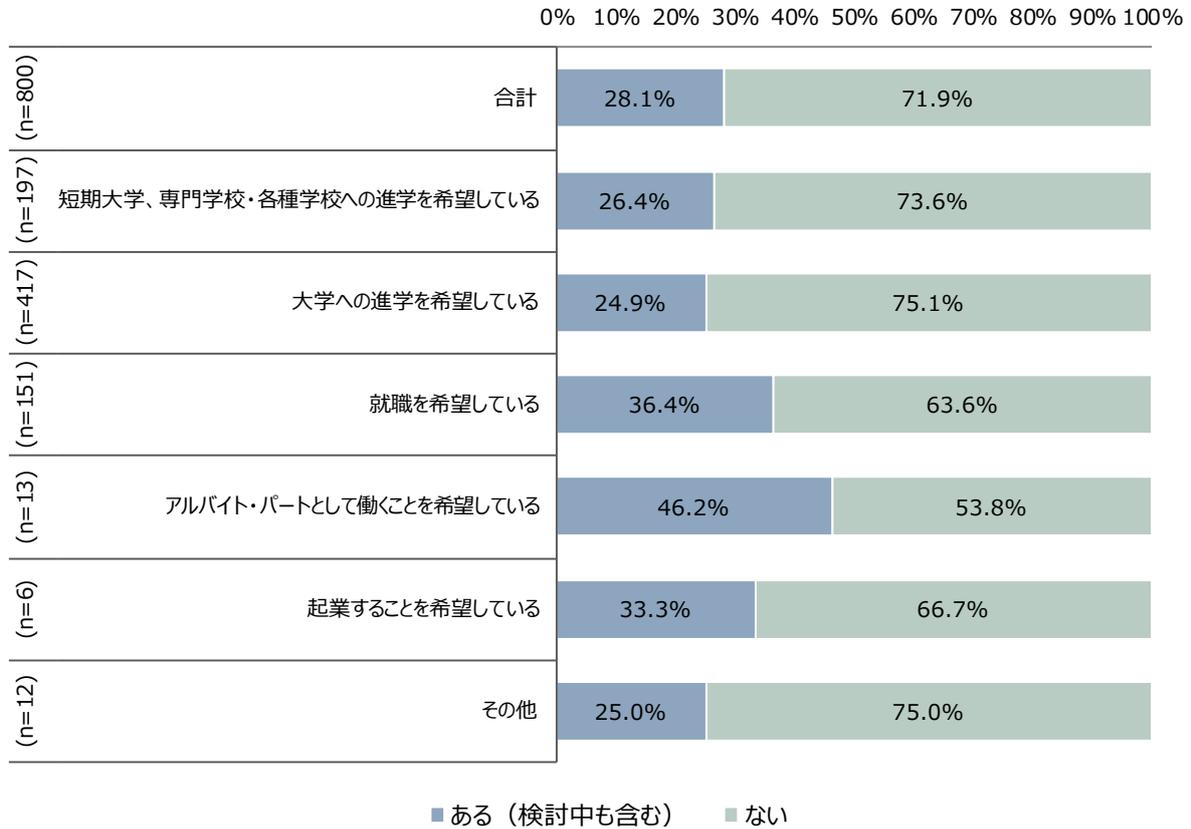
図表 23 居住地別新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択の変更の有無(単一回答)



### ■希望進路別の傾向

希望進路別に見ると、アルバイト・パート希望、就職希望、起業希望などで「ある」の割合が高い。

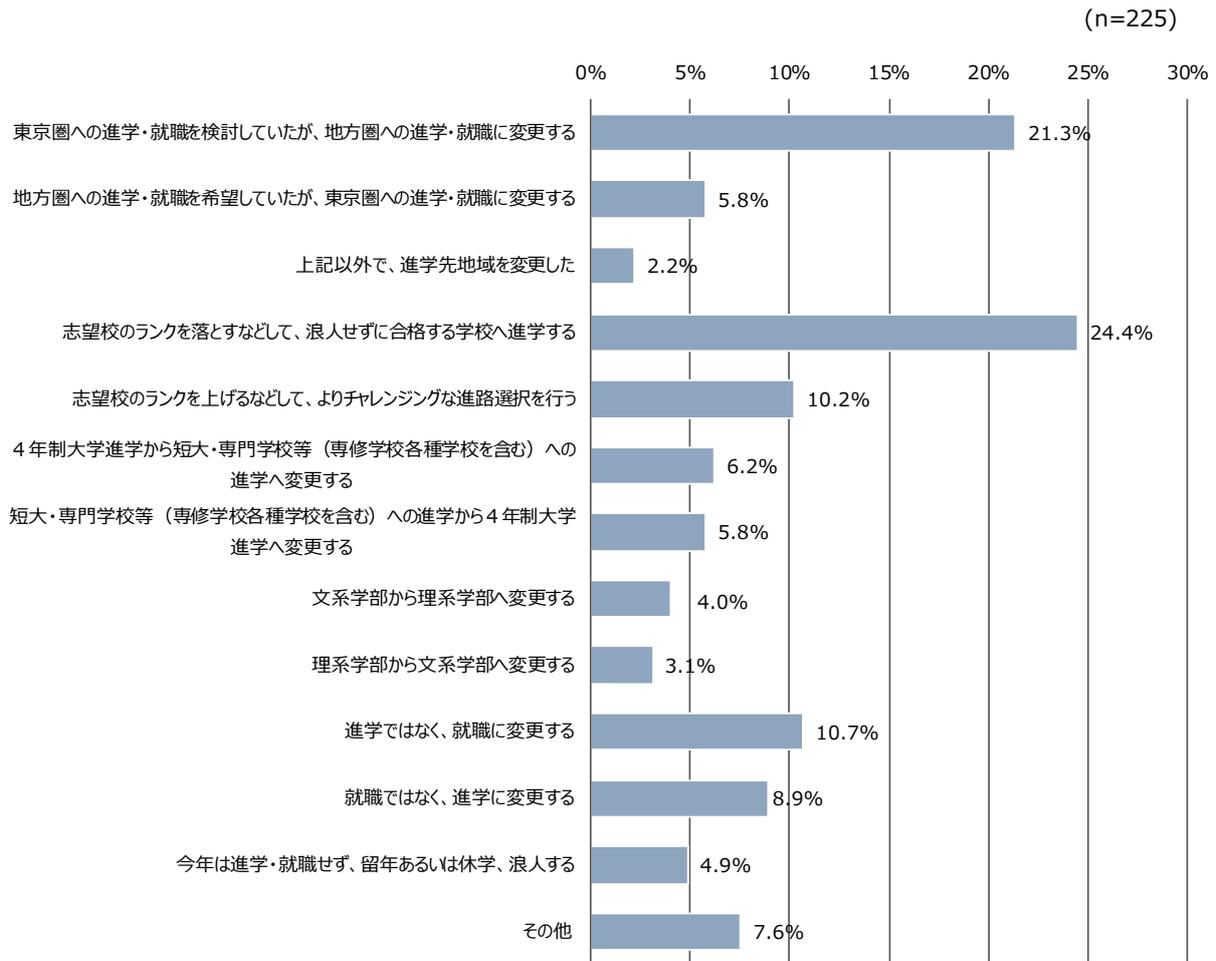
図表 24 希望進路別新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択の変更の有無(単一回答)



## ② 新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択変更の内容

新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択の変更が「ある」と回答した人の、変更の内容は、「志望校のランクを落とすなどして、浪人せずに合格する学校へ進学する」が最も多く 24.4%となっている。次いで「東京圏への進学・就職を検討していたが、地方圏への進学・就職に変更する」が 21.3%、「進学ではなく、就職に変更する」が 10.7%となっている。

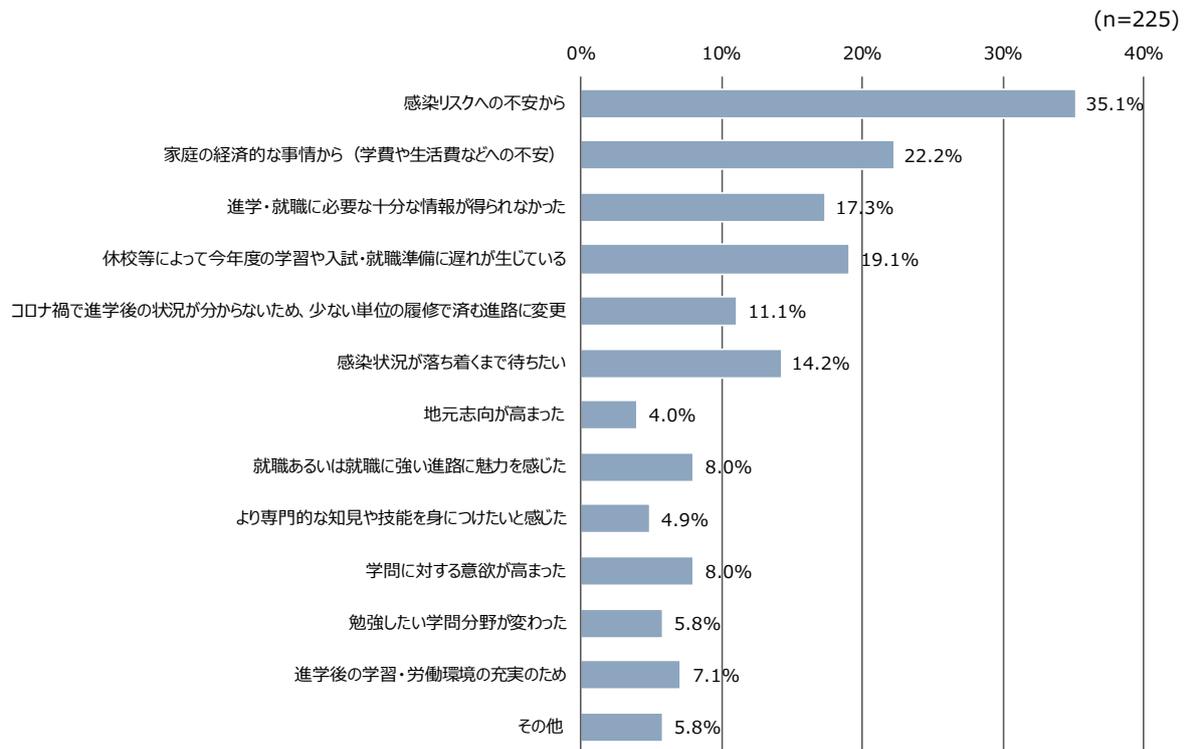
図表 25 新型コロナウイルスによる進路選択変更内容(複数回答)



### ③ 新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択変更の理由

新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択の変更の理由は、「感染リスクへの不安から」が最も多く 35.1%となっている。次いで「家庭の経済的な事情から（学費や生活費などへの不安）」が 22.2%、「休校等によって今年度の学習や入試・就職準備に遅れが生じている」が 19.1%となっている。

図表 26 進路選択の変更の理由(複数回答)



### ■進路変更の内容別 進路選択変更理由

③の「進路変更の内容」ごとにみた、「進路選択の変更理由」の割合を下記図表に示している（いずれも複数回答）。薄い赤は25%以上～35%以下の割合を示したものであり、濃い赤は35%より高い割合を示したものである。

「東京圏への進学・就職を検討していたが、地方圏への進学・就職に変更する」という者のうち、72.9%が「感染リスクの不安から」という理由を選んでおり、特に高い割合を示した。その他、家庭の経済的な事情、必要な十分な情報が得られないなどの理由も、全体と比較して高い割合を示している。

図表 27 進路変更の内容別新型コロナウイルス感染症の影響による進路選択の変更理由(単一回答)

	該当数	感染リスクへの不安から	家庭の経済的な事情から(学費や生活費などへの不安)	進学・就職に必要な十分な情報が得られなかった	や入学試験・就職準備に遅れが学生に	履修で済むため、少ない単位の単位で進路を変更	コロナ禍で進学後の状況が分からない	感染状況が落ち着くまで待たない	地元志向が高まった	就職魅力を感じた	より専門的な見方や技能を身につけたいと感じた	学問に対する意欲が高まった	勉強したい学問分野が変わった	進学後の学習・労働環境の充実のため	その他
全体	225	35.1	22.2	17.3	19.1	11.1	14.2	4.0	8.0	4.9	8.0	5.8	7.1	5.8	
進路変更の内容	東京圏への進学・就職を検討していたが、地方圏への進学・就職に変更する	48	72.9	35.4	31.3	20.8	16.7	25.0	4.2	8.3	4.2	2.1	4.2	2.1	2.1
	地方圏への進学・就職を希望していたが、東京圏への進学・就職に変更する	13	53.8	0.0	7.7	15.4	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7
	上記以外で、進学先地域を変更した	5	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0
	志望校のランクを落とすなどして、浪人せず合格する学校へ進学する	55	36.4	40.0	23.6	40.0	12.7	9.1	1.8	5.5	7.3	5.5	5.5	5.5	0.0
	志望校のランクを上げるなどして、よりチャレンジングな進路選択を行う	23	21.7	4.3	21.7	8.7	13.0	21.7	0.0	13.0	13.0	21.7	4.3	4.3	4.3
	4年制大学進学から短大・専門学校等(専修学校各種学校を含む)への進学へ変更する	14	28.6	42.9	14.3	21.4	35.7	14.3	7.1	21.4	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0
	短大・専門学校等(専修学校各種学校を含む)への進学から4年制大学進学へ変更する	13	15.4	7.7	15.4	0.0	15.4	0.0	7.7	30.8	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0
	文系学部から理系学部へ変更する	9	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	22.2	0.0	22.2	33.3	0.0	0.0
	理系学部から文系学部へ変更する	7	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	42.9	0.0	42.9	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0
	進学ではなく、就職に変更する	24	33.3	33.3	20.8	4.2	12.5	20.8	16.7	16.7	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0
	就職ではなく、進学に変更する	20	20.0	5.0	35.0	30.0	10.0	10.0	5.0	5.0	20.0	15.0	15.0	20.0	10.0
	今年は進学・就職せず、留年あるいは休学、浪人する	11	36.4	45.5	9.1	9.1	0.0	36.4	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	27.3	0.0
	その他	17	35.3	5.9	0.0	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.1

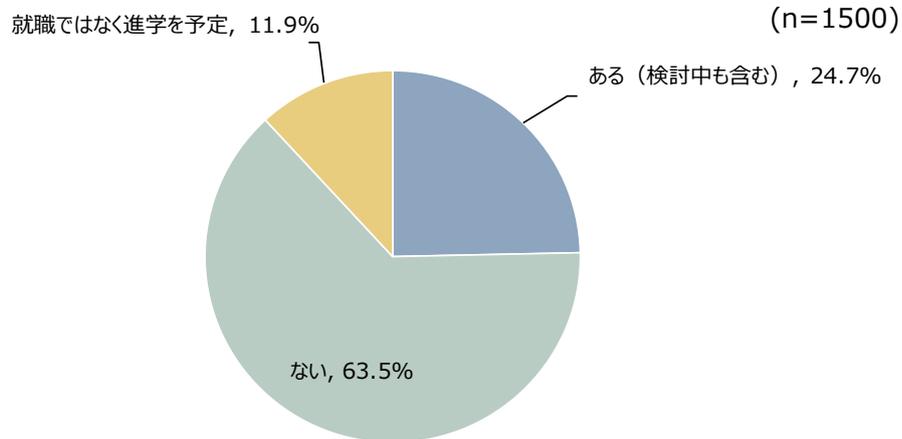
(単位：%)

## (2) 大学、大学院生、専門学校等（全国）

### ① 新型コロナウイルス感染症の影響による就職先地域の変化の有無

新型コロナウイルス感染症の影響による就職先の地域の変更は、「ある」が24.7%、「ない」が63.5%となっている。

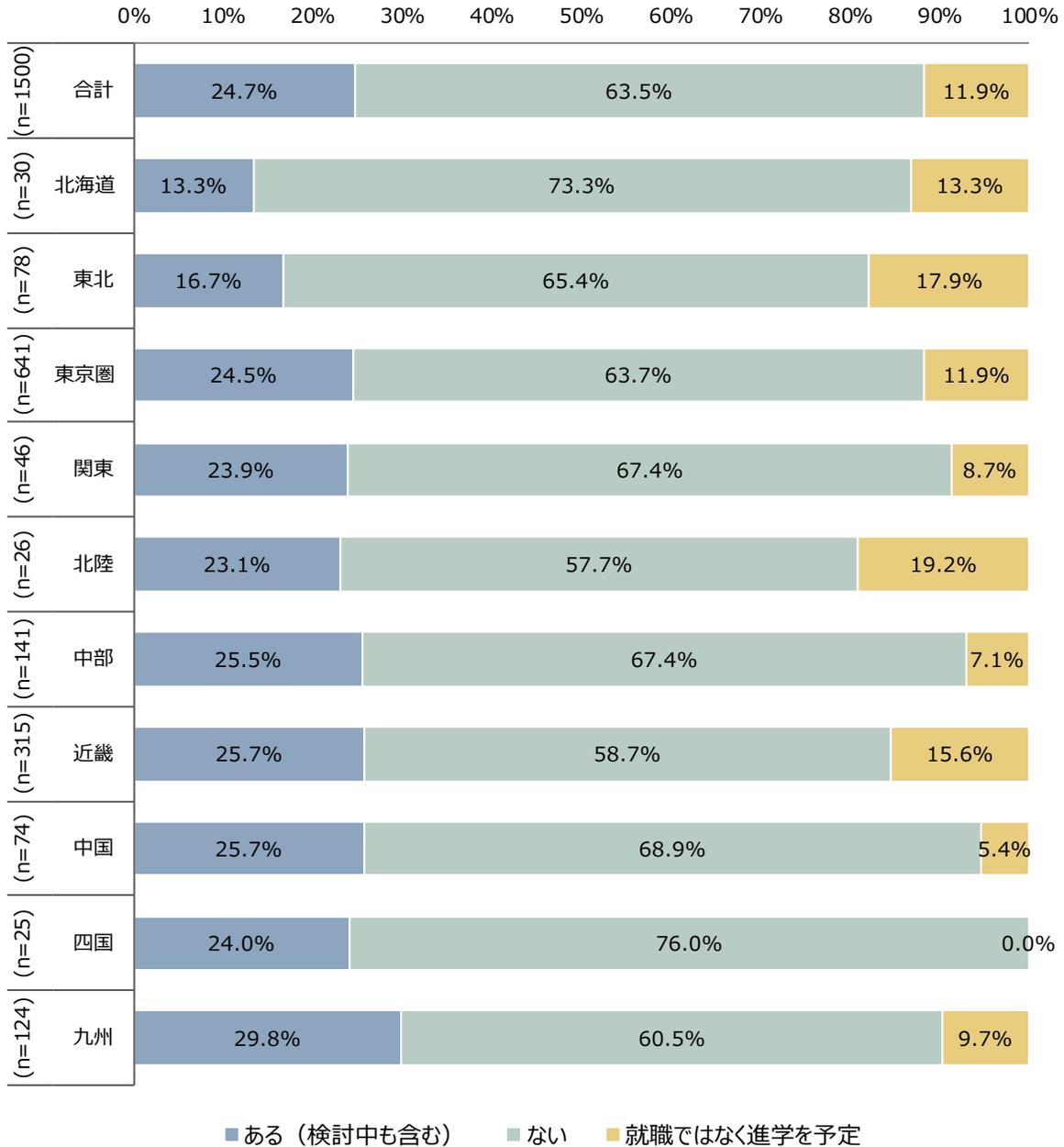
図表 28 新型コロナウイルス感染症の影響による就職先の地域の変更の有無（単一回答）



■大学等所在地別の傾向

大学等の所在地別に見ると、「ある」の割合が九州圏で高く、北海道、東北圏で低い。

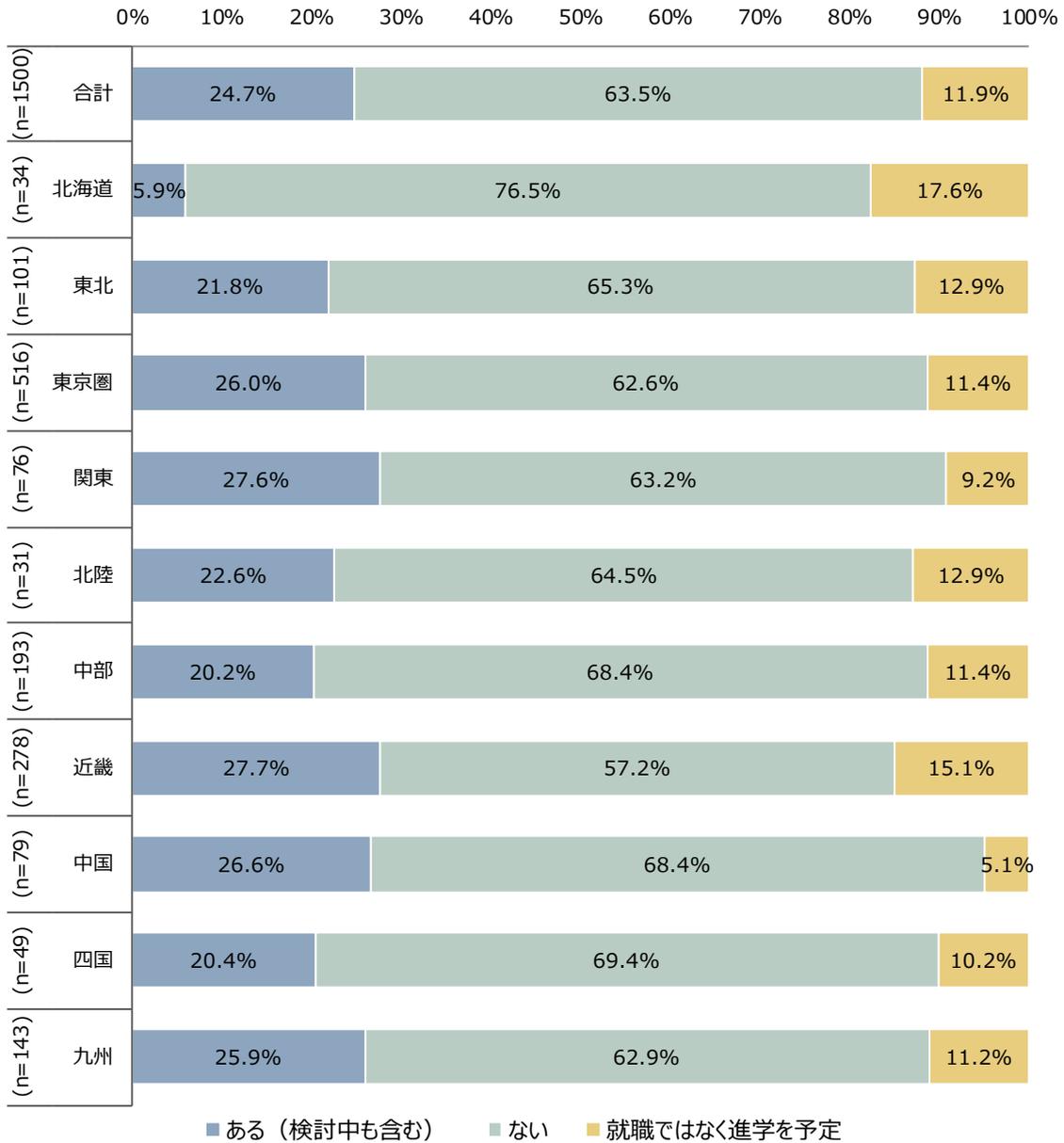
図表 29 大学所在地別新型コロナウイルス感染症の影響による就職先の地域の変更の有無(単一回答)



■出身地（高校卒業時の居住地）別の傾向

出身地（高校卒業時の居住地）別に見ると、東京圏、関東圏、近畿圏、中国圏などで「ある」の割合がやや高い。

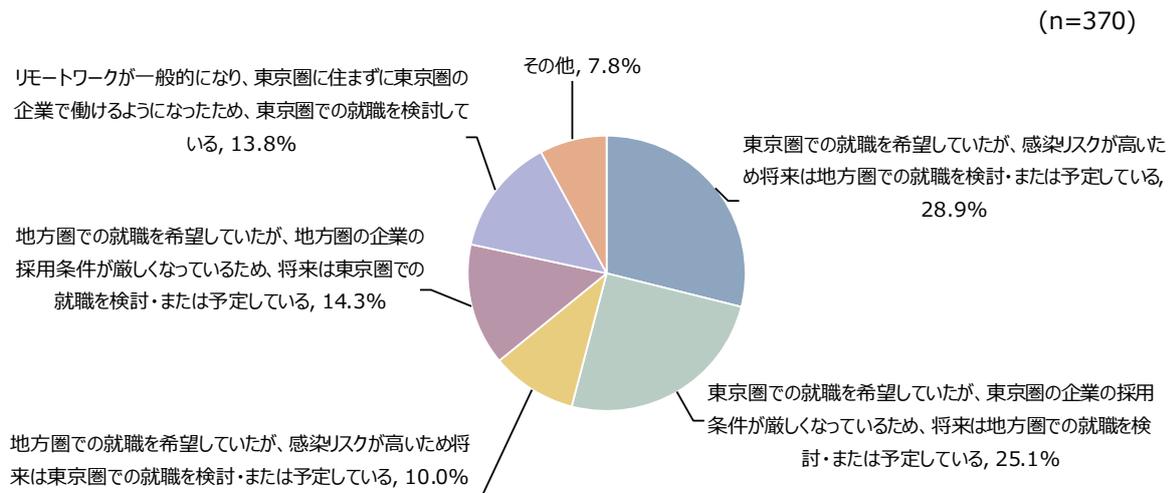
図表 30 出身地(高校卒業時の居住地)別新型コロナウイルス感染症の影響による就職先の地域の変更の有無(単一回答)



## ② 新型コロナウイルス感染症の影響による就職先変更の内容及び理由

新型コロナウイルス感染症の影響により就職先（地域）に変化が「ある」と回答した人の変化の内容は、「東京圏での就職を希望していたが、感染リスクが高いため将来は地方圏での就職を検討・または予定している」が最も多く 28.9%となっている。次いで「東京圏での就職を希望していたが、東京圏の企業の採用条件が厳しくなっているため、将来は地方圏での就職を検討・または予定している」が 25.1%、「地方圏での就職を希望していたが、地方圏の企業の採用条件が厳しくなっているため、将来は東京圏での就職を検討・または予定している」が 14.3%となっている。

図表 31 就職先変更の内容及び理由(単一回答)

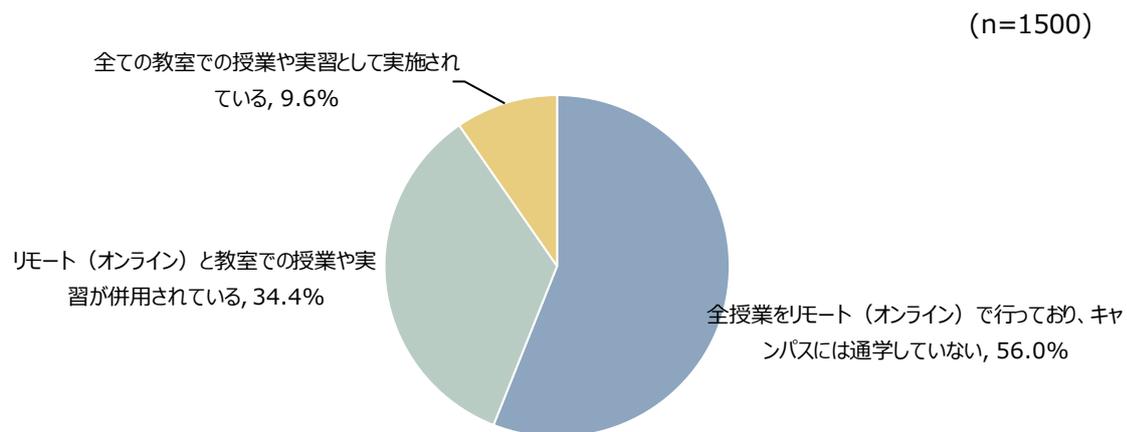


## 4. 大学、専門学校等での授業の実態

### (1) 現在の大学での授業の状況

現在の大学での授業の状況は、「全授業をリモート（オンライン）で行っており、キャンパスには通学していない」が 56.0%と最も多く、次いで「リモート（オンライン）と教室での授業や実習が併用されている」が 34.4%、「全ての教室での授業や実習として実施されている」が 9.6%となっている。

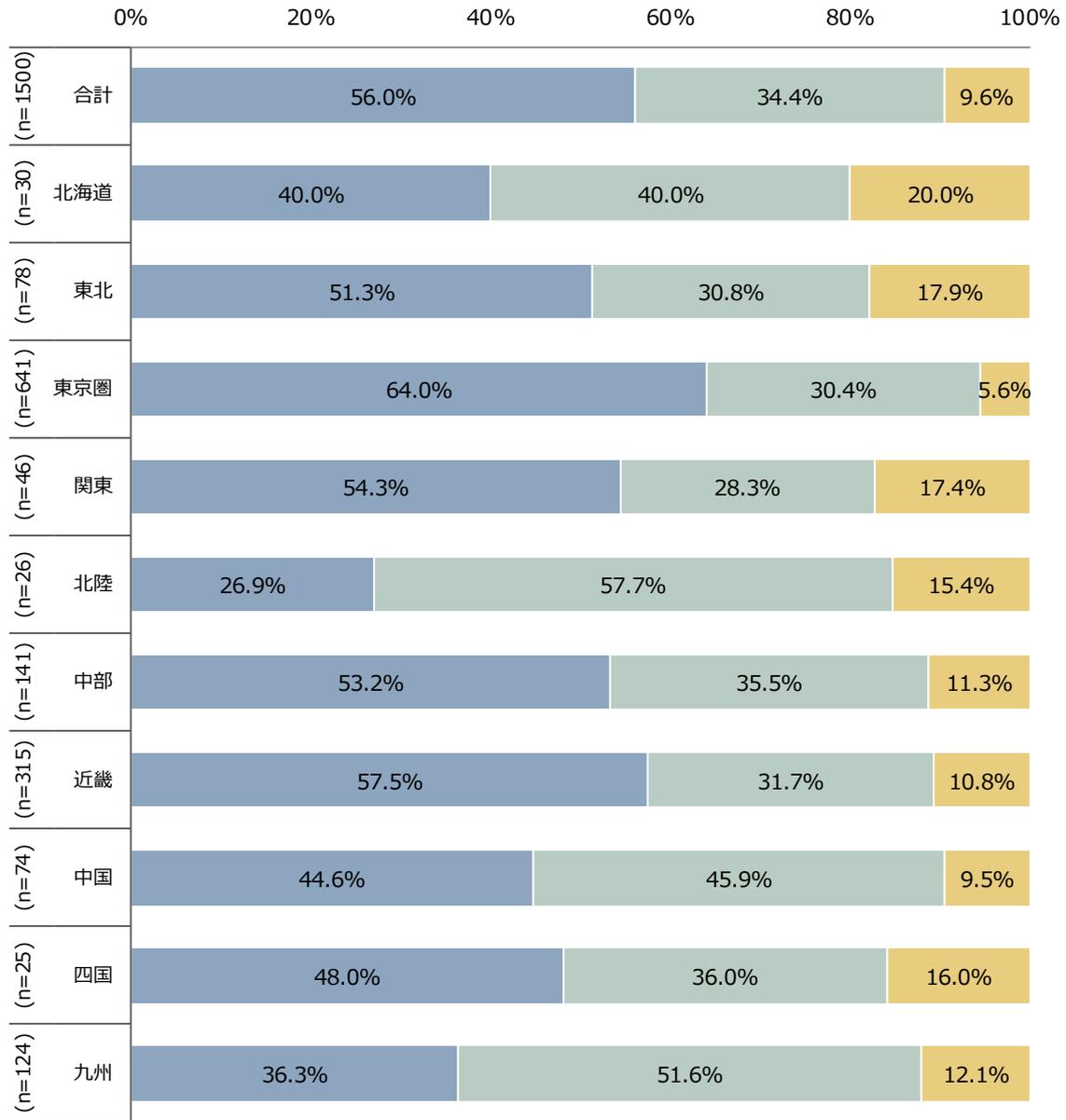
図表 32 大学での授業の状況(単一回答)



### ■大学所在地域別の傾向

大学所在地域別に見ると、東京圏の大学で「全授業をリモート（オンライン）で行っており、キャンパスには通学していない」の割合が最も高い。

図表 33 大学所在地域別大学での授業の状況(単一回答)



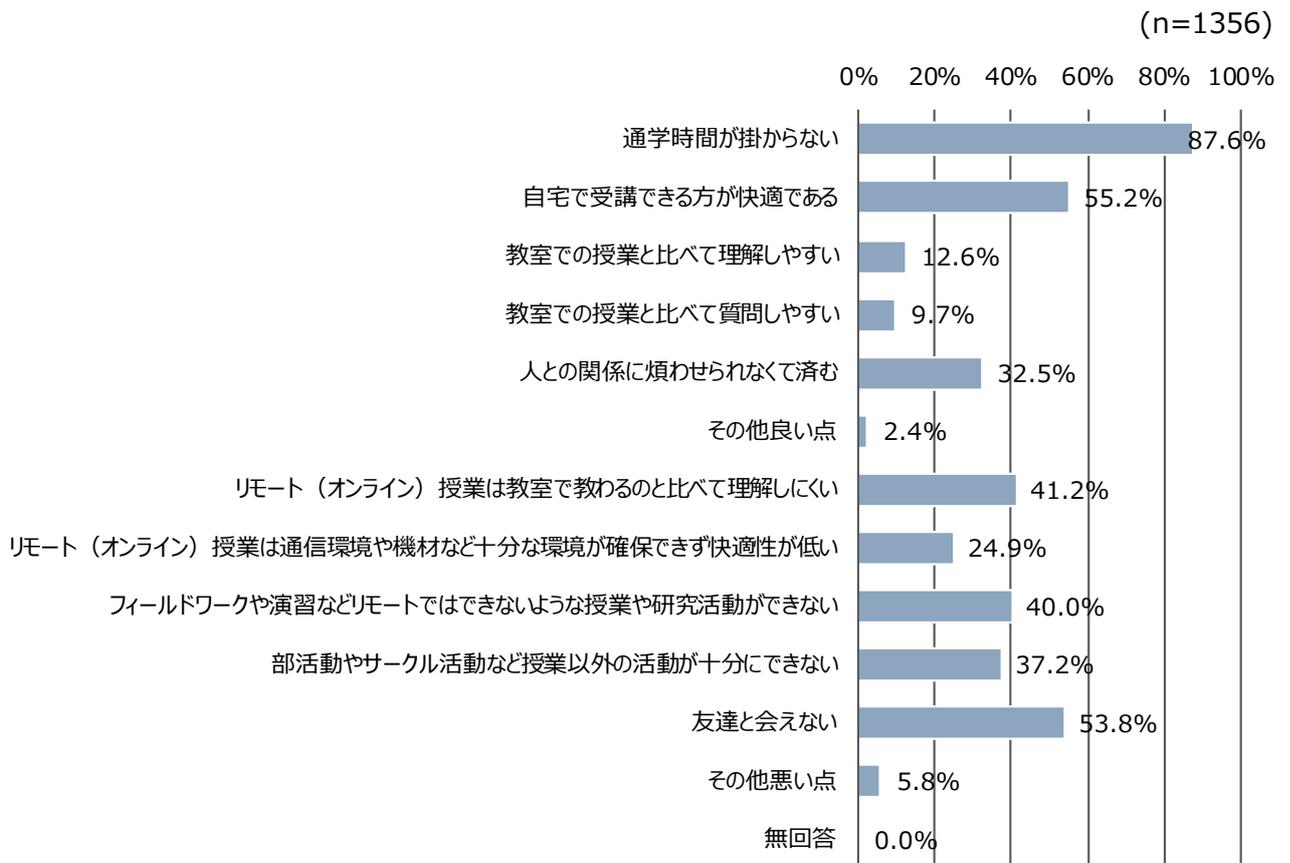
- 全授業をリモート（オンライン）で行っており、キャンパスには通学していない
- リモート（オンライン）と教室での授業や実習が併用されている
- 全ての教室での授業や実習として実施されている

## (2) リモート（オンライン）での授業の良い点、悪い点

リモート授業の良い点としては、「通学時間が掛からない」が 87.6%と最も多く、次いで「自宅で受講できる方が快適である」が 55.2%、「人との関係に煩わせられなくて済む」が 32.5%となっている。

リモート授業の悪い点としては、「友達と会えない」が 53.8%と最も多く、次いで「リモート（オンライン）授業は教室で教わるのと比べて理解しにくい」が 41.2%、「フィールドワークや演習などリモートではできないような授業や研究活動ができない」が 40.0%となっている。

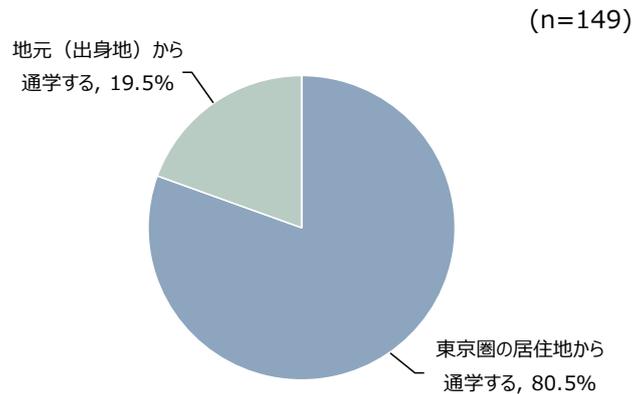
図表 34 リモート授業の良い点、悪い点(複数回答)



### (3) リモート（オンライン）授業が継続した場合の通学について

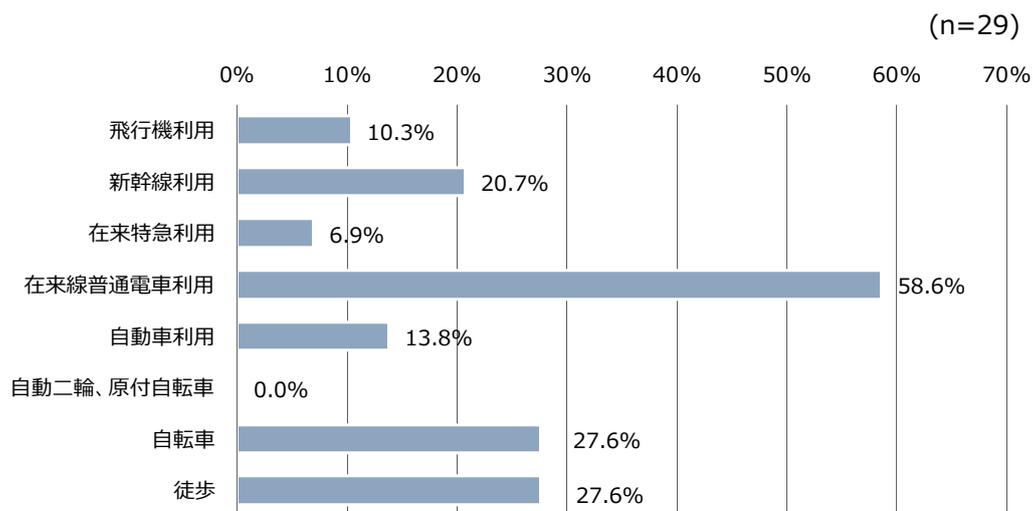
東京圏以外の地域出身の大学生等で、4（1）で「全授業をリモート（オンライン）で行っており、キャンパスには通学していない」及び「リモート（オンライン）と教室での授業や実習が併用されている」と回答した者のうち、リモートが継続した場合の東京圏大学への通学方法については、「東京圏の居住地から通学する」が80.5%、「地元（出身地）から通学する」が19.5%となっており、今後リモート授業が継続される場合、東京圏に居住している地方圏出身の学生の2割程度が東京圏から移住する可能性があると言える。

図表 35 リモート授業が継続した場合の通学方法(単一回答)



また、「地元（出身地）から通学する」と回答した人の通学手段をみると、「在来線普通電車利用」が58.6%と最も多く、次いで「自転車」と「徒歩」が27.6%、「新幹線利用」が20.7%となっている。

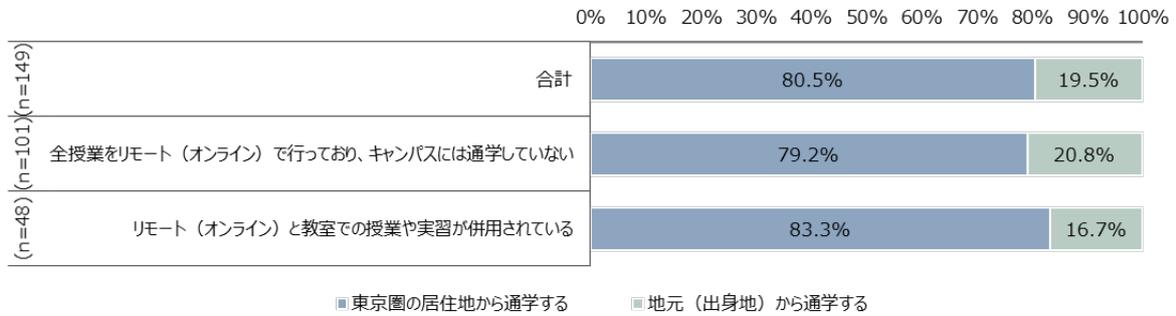
図表 36 地元からの通学手段(複数回答)



### ■授業の状況別の傾向

授業の状況別に見ると、教室での授業や実習が併用されているケースでも 16.7%が地元（出身地）から通学するとしている。

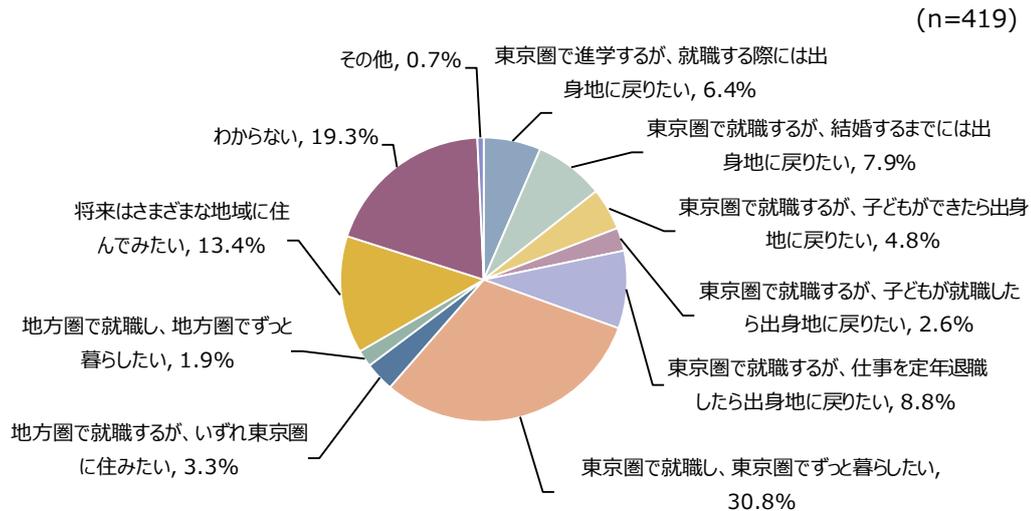
図表 37 授業の状況別リモート授業が継続した場合の通学方法（単一回答）



## 5. 将来の居住地の希望

東京圏出身者を除く大学生と東京圏在住を除く高校生の将来の居住地の希望は、30.8%が東京圏でずっと暮らしたいと考えており、将来はさまざまな地域に住むとしている者も含め、44.2%が地元に戻らない意向を示している。一方、同じく3割が東京圏で進学・就職するがいずれ東京圏以外の出身地に戻りたいと考えている。

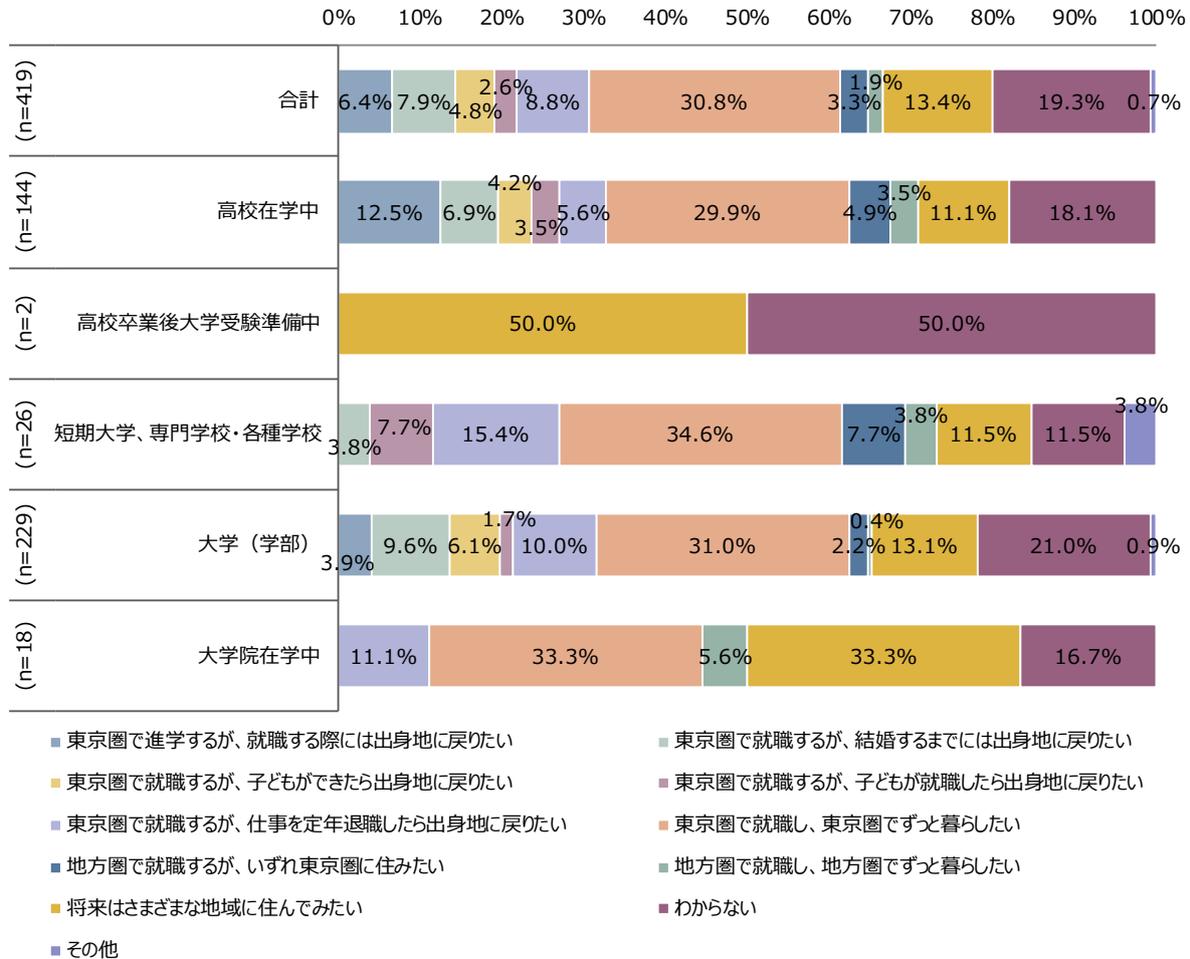
図表 38 将来の居住地の希望(東京圏出身者以外の大学生及び高校生)(単一回答)



■社会的立場別の傾向

社会的立場別にみると、「高校在学中」においては、若干ではあるが将来出身地（高校卒業時の居住地）に戻りたいとする回答の合計割合が高く、「短期大学、専門学校・各種学校」ではやや低い。

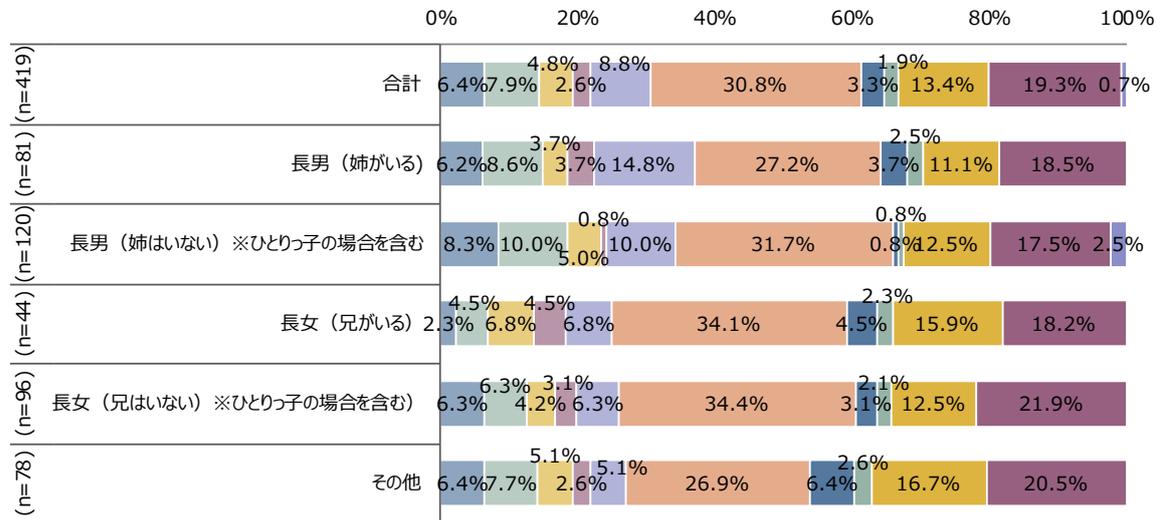
図表 39 社会的立場別将来の居住地の希望(単一回答)



■兄弟の中での立場別の傾向

兄弟の中での立場別に見ると、「長男（姉がいる）」「長男（姉はいない）」で将来出身地（高校卒業時の居住地）に戻りたいとする回答の合計割合が高いが、長女ではこうした傾向はない。

図表 40 兄弟の中での立場別将来の居住地の希望(単一回答)

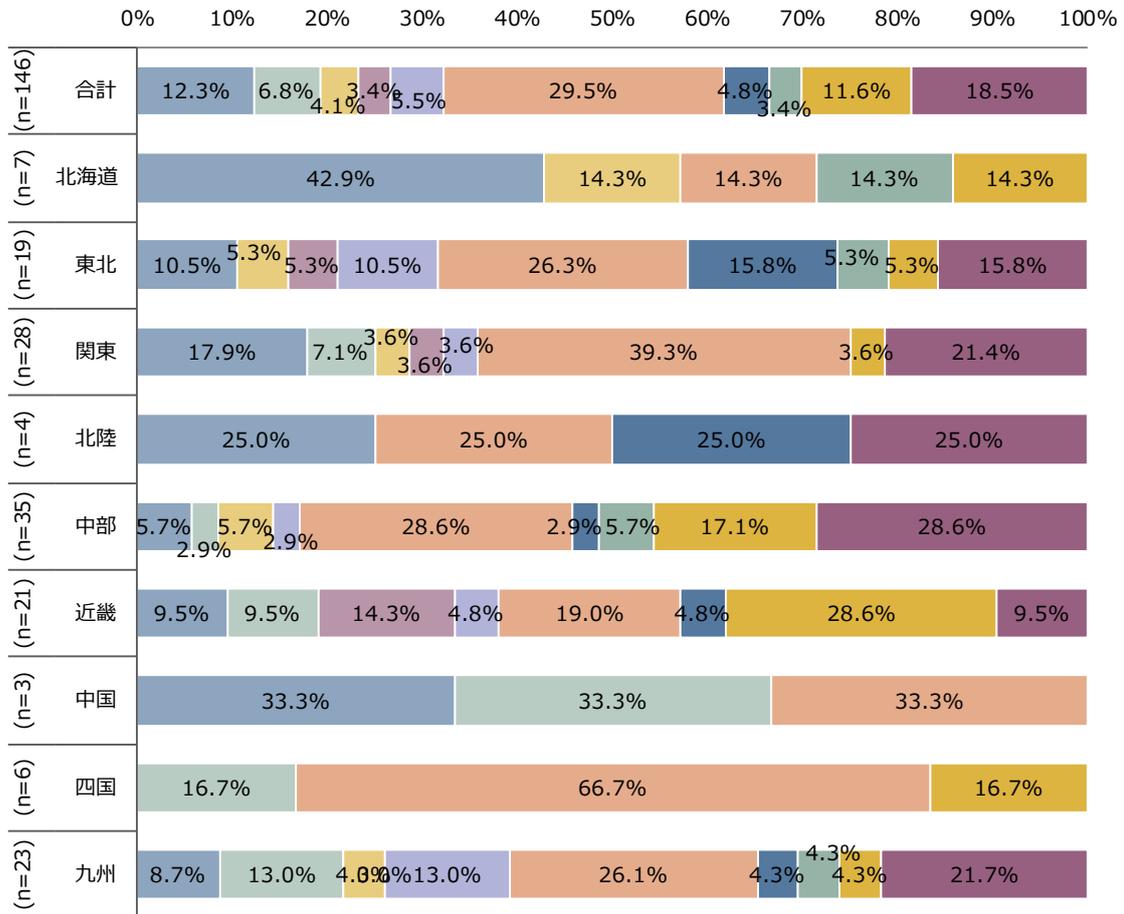


- 東京圏で進学するが、就職する際には出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、結婚するまでには出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、子どもができれば出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、子どもが就職したら出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、仕事を定年退職したら出身地に戻りたい
- 東京圏で就職し、東京圏ですずっと暮らしたい
- 地方圏で就職するが、いずれ東京圏に住みたい
- 地方圏で就職し、地方圏ですずっと暮らしたい
- 将来はさまざまな地域に住んでみたい
- わからない
- その他

■高校生等の居住地別の傾向

高校生等（「高校在学中」「高校卒業後大学受験準備中」）の居住地別にみると、将来出身地（高校卒業時の居住地）に戻りたいとする回答の合計割合は関東圏、近畿圏、九州圏の在住・出身は高く（ただしサンプル数が少ないことに留意が必要）、中部圏では低い。

図表 41 高校生の居住地別将来の居住地の希望(単一回答)

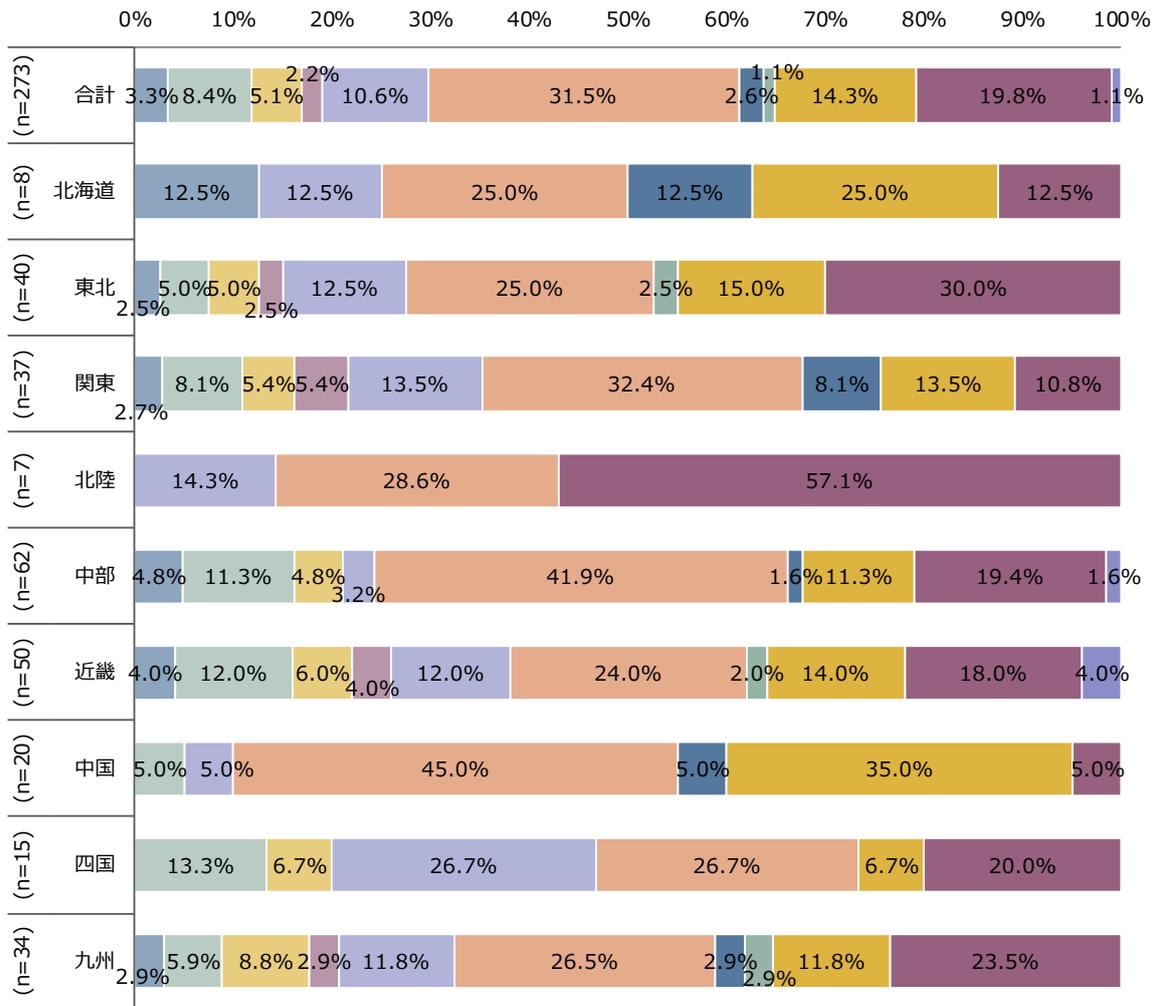


- 東京圏で進学するが、就職する際には出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、結婚するまでには出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、子どもができれば出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、仕事が定年退職したら出身地に戻りたい
- 東京圏で就職し、東京圏ですっと暮らしたい
- 地方圏で就職するが、いずれ東京圏に住みたい
- 地方圏で就職し、地方圏ですっと暮らしたい
- 将来はさまざまな地域に住んでみたい
- わからない

■地方圏出身大学生等の出身地（高校卒業時の居住地）別の傾向

地方圏出身大学生等（「短期大学、専門学校・各種学校」「大学（学部）」「大学院在学中」）の出身地（高校卒業時の居住地）別に見ると、将来出身地（高校卒業時の居住地）に戻りたいとする回答の合計割合は四国圏、近畿圏、関東圏の出身者は高く、中国圏では低くなっている。

図表 42 大学生の出身地(高校卒業時の居住地)別将来の居住地の希望(単一回答)



- 東京圏で進学するが、就職する際には出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、結婚するまでには出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、子どもができれば出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、子どもが就職したら出身地に戻りたい
- 東京圏で就職するが、仕事を定年退職したら出身地に戻りたい
- 東京圏で就職し、東京圏ですっと暮らしたい
- 地方圏で就職するが、いずれ東京圏に住みたい
- 地方圏で就職し、地方圏ですっと暮らしたい
- 将来はさまざまな地域に住んでみたい
- わからない
- その他

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。